

札幌・ノボシビルスク

姉妹都市提携25周年記念誌

САППОРО ↔ НОВОСИБИРСК



СБОРНИК, ПОСВЯЩЕННЫЙ 25-ЛЕТИЮ
УСТАНОВЛЕНИЯ ПОБРАТИМСКИХ СВЯЗЕЙ МЕЖДУ
САППОРО И НОВОСИБИРСКОМ

TABLE OF CONTENTS

目 次

■ご挨拶

| | |
|-----------------------------|---|
| 札幌市長 秋元 克広 | 2 |
| ノボシビルスク市長 アナトーリー・ローコチ | 3 |

■祝 辞

| | |
|---------------------------------------|---|
| 在札幌ロシア連邦総領事館総領事 アンドレイ・ファブリーチニコフ | 4 |
| 札幌姉妹都市協会会長 福迫 尚一郎 | 5 |
| シベリア・北海道文化センター館長 アレクサンドル・スピリドノフ | 5 |

■姉妹都市提携25周年記念事業を振り返って

| | |
|--------------------|---|
| 札幌からノボシビルスクへ | 6 |
| ノボシビルスクから札幌へ | 8 |

■姉妹都市提携への道のり

■交流の足跡（1974年～2015年）

■札幌・ノボシビルスク市民交流の担い手

■広がる交流活動

■ノボシビルスクの紹介

| | |
|--------------------|----|
| ノボシビルスクの概要 | 43 |
| ノボシビルスクのみどころ | 48 |

■資料編

- ・札幌市とノボシビルスク市との友好促進に関する決議（1989.5.12）
- ・札幌市とノボシビルスク市との姉妹都市提携に関する決議（1990.3.19）
- ・札幌市とノボシビルスク市との間における姉妹都市提携に関する盟約（1990.6.13）
- ・札幌市とノボシビルスク市との交流に関する覚書（1990.6.13）
- ・札幌市（日本）ノボシビルスク市（ソ連）姉妹都市間友好と協力の発展に関する声明書（1990.8.21）
- ・西暦 2000 年までの札幌市とノボシビルスク市の姉妹関係促進に関する宣言（1995.9.7）
- ・札幌市（日本）とノボシビルスク市（ロシア）の姉妹関係促進に関する宣言（2000.6.29）
- ・札幌市（日本）とノボシビルスク市（ロシア）の姉妹関係促進に関する宣言（2005.6.25）
- ・札幌市（日本）とノボシビルスク市（ロシア）の姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言（2010.6.26）
- ・札幌市（日本）とノボシビルスク市（ロシア）の姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言（2015.6.27）
- ・札幌・ノボシビルスク友好提携団体及び学術交流団体一覧
- ・歴代ノボシビルスク市長
- ・ノボシビルスク市及びノボシビルスク市議会の行政組織
- ・両市間の主な交換記念品・贈呈品
- ・在札幌ロシア関係機関・友好団体



新しい四半世紀のはじまり



札幌市長

秋元克広

2015年、札幌市とノボシビルスク市は姉妹都市提携25周年を迎えました。ノボシビルスク市とは、1990年に姉妹都市提携の調印を行って以来、芸術・文化、スポーツ、学術、青少年交流など市民レベルでの様々な交流が大変活発に行われてきました。

両市の友情をここまで深めることができたのは、これまで交流に携わってこられた多くの市民の皆さまの熱意とご尽力の賜物にほかなりません。関係の皆さまに深く敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

25周年を迎えた2015年を振り返ってみますと、6月には、札幌から市民訪問団がノボシビルスクを訪れ、ノボシビルスクの創設を記念する「まちの日」の関連イベントや市民同士の文化交流に参加したほか、両市の姉妹都市関係のさらなる促進を図るため、新しい宣言文への調印が交わされました。

そして、10月には、ノボシビルスク市からローコチ市長を団長とする訪問団の皆さまを札幌に迎え、25周年記念式典・祝賀会を開催いたしました。記念式典では、同年、姉妹都市少年交流事業に参加された札幌の中学生の皆さんから、両市の交流の発展に向けた提言をいただくなど、若い世代の方々にも積極的に参加していただきました。札幌とノボシビルスクの姉妹都市交流にとって、新たな四半世紀が始まるという場にふさわしい未来につながる式典を開催できたのではないかと考えております。

今後とも、25年間で培ってきた友情と信頼の絆がより一層深まり、さらには新しい広がりを生み出せるよう、両市の皆さまと一緒に交流の輪を広げてまいりたいと考えております。市民の皆さまにおかれましても、これまでと変わらぬご協力をお願い申し上げます。

本冊子を通して、25年間に渡り友情を育んできたノボシビルスクをもっと身近に感じていただくとともに、札幌市の姉妹都市交流に一層のご関心をお持ちいただければ幸いです。



尊敬する友人 札幌市民の皆様へ



ノボシビルスク市長

アナトーリー・ローコチ

ノボシビルスク市民を代表して、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携25周年をお祝い申し上げます。

両市の姉妹都市提携は四半世紀前、1990年6月13日に結ばれました。札幌とノボシビルスクの強固な友好関係は25年という時を経ても変わらず続いてきました。四半世紀にわたった日本とロシアの民間交流がお互いに有益なものであることを確認できたと思います。

道路建設、まちづくり、ゴミ分別やリサイクル、ハイテク産業、スポーツの推進などの分野で日本は豊かな経験があり、ノボシビルスクにとって、日本の姉妹都市から学べるものがたくさんあります。ノボシビルスクも日本の方に観光地としてだけではなく様々な分野で関心と呼べると思っております。

両市は、情報交換、短期交換留学、写真展示会、コンサート、こども絵展示会、日本とロシアの文化祭、スポーツ交流、青少年交流など様々な分野で協力しながら姉妹都市交流事業を行っています。ノボシビルスクでは日本及び札幌との文化交流が最も盛んです。

現在、ノボシビルスクにおける日ロ交流は市立シベリア・北海道文化センターがなければ考えられません。当センターは1996年に創立され、シベリアの首都にありながら日本の一部になったような施設です。シベリア・北海道文化センターは日本の伝統的精神を持っており、また、日本語講座があるノボシビルスクの大学と協力しながら活動しています。

ノボシビルスク国立グリニカ音楽院附属日本音楽文化センターも、1992年に同音楽院と北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の発議で創立され、姉妹都市の文化交流を発展させるための大事な施設となりました。現在も、ノボシビルスク市役所は日本音楽文化センターの活動を支援しております。

有名なソ連時代のジャーナリストで、6年間東京で特派員経験のある V. オフチニコフは「一枝の桜」という本でこう述べました。

「日本の性格は、植木屋が長年にわたって枝をためたり結んだり、ささえ木を当てがったりして丹精した木にたとえられる。あとで、その木から柵木や支木をはずしたとしても、伸び伸びと茂った樹形の底には、かつて幹とおもな枝に与えられた形が、そのまま保たれている。たとえ表面から深く隠れたどこかに横たわっているにせよ、道徳的基盤こそ人間関係の代数学である。その公式さえ知っていれば、現代の生活が提起している問題を解くことは、より簡単となる。」（※）

それと同様、長年にわたって両市の市民が中心となって形を作ってきた姉妹都市関係が成熟してきた今、私たちはその関係を発展させたり、広めたり、深めたりすべきです。

相互理解に基づいた私たちの協力はこれからも長く続き、実りのあるものとなることを確信しております。最後に、ノボシビルスク市民を代表して、札幌市民の皆様との平和と健康、幸福をお祈り申し上げます。

（※） V. オフチニコフ（1971）『一枝の桜－日本人とは何か』（早川徹訳）読売新聞社、39頁



親愛なる友人の皆さま

在札幌ロシア連邦総領事館総領事

アンドレイ・ファブリーチニコフ

2015年にはノボシビルスク市と札幌市間の姉妹都市提携25周年が盛大に祝われました。

この25年間には、文化、青少年、スポーツ分野などの交流を促進するために様々なことが行われてきました。日本の友好団体のご支援とご協力のもとノボシビルスクに素晴らしい「シベリア・北海道」文化センターが建てられました。そのセンターは、両都市の市民間の緊密な友好関係を築き、日本の伝統と文化を理解するための良好な場となっております。

札幌市では、毎年「雪まつり」が開催されていて、ノボシビルスクのチームも何度もこのお祭りに参加させていただいておりますが、この「雪まつり」に影響を受けまして、ノボシビルスクでも「シベリア雪像フェスティバル」が開催されるようになりました。

札幌市、民間団体、科学、文化分野の関係者、大学関係者などはたびたびノボシビルスク市を訪問されておりますが、この都市を気に入られたものと確信いたしております。

札幌市民の皆様もノボシビルスク市民をいつもあたたかく迎え入れてくださり、「シベリアの首都」・ノボシビルスク市との関係を非常に大事にしておられます。2015年にはノボシビルスク・札幌姉妹都市提携25周年を記念して、札幌市で「ロシア語詩の集い」やバレエ「くるみ割り人形」の初演が開催されました。

これは、ノボシビルスク市と札幌市が同じような気候条件にあり、ほぼ同数の人口を有するという共通点で結ばれているばかりではなく、両都市には発達したインフラや科学、文化、教育の強力なポテンシャルがあるからでもあります。

この記念日はもちろん、ローコチ市長と秋元市長との会談は両姉妹都市交流の歴史の新しい1ページを開き、そして、活発な人道交流に加え、さまざまな分野での互恵的な経済協力へと導かれるものと思います。ノボシビルスク市と札幌市の市民の皆様がこの分野で成功をおさめ、ロシアと日本の善隣関係の強化に寄与することを心から願っております。

札幌・ノボシビルスク姉妹都市 提携20周年を迎えて



札幌姉妹都市協会会長
福 迫 尚 一 郎

1990年に札幌とノボシビルスクが姉妹都市提携を結んでから、25年という長い間、両市は、芸術文化、学術、経済、スポーツ、青少年交流など様々な分野で交流を深めて参りました。これはひとえに、両市民の熱意によって支えられてきたものです。

去る2015年6月24日(水)から6月29日(月)までノボシビルスク市に滞在した札幌市民で構成される訪問団は、行く先々でノボシビルスク市民からの心のこもった「おもてなし」を受け、胸を熱くしました。特に、現地で日本語学習に取り組む若い世代との交流は、今後の両市の友好関係を感じさせ、頼もしい限りです。

公益財団法人札幌国際プラザならびに札幌姉妹都市協会では、毎年、連携団体である「シベリア・北海道文化センター」で日本語を学ぶ青年たちを10日間程度受け入れ、日本文化に触れる機会や札幌市民との交流、札幌について知ってもらう視察等のプログラムを実施しています。青年たちは、札幌市民との交流を楽しみ、多くのことを学び、ノボシビルスクに戻ってからも日本語を学び続けていると聞きます。

今回のノボシビルスク訪問でも、多くの「元・青年訪問団」が札幌市民訪問団と交流し、相互理解を深め、継続的交流を続けています。

これらの「輪」がこれからもずっと続いていくと、私は確信しております。

これからも両市の市民が草の根の交流を続け、日本とロシアの友好関係の一端を担い、世界平和に寄与していくことを心から願っております。

札幌市民の皆様へ



シベリア・北海道文化センター館長
アレクサンドル・スピリドノフ

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携25周年にあたり、両市の市民の健康と平和、幸福をお祈り申し上げます。

25年という期間は歴史的には短い期間です。しかし、両市の市民は、相互理解、友好関係の強化、共同事業の実施、新しい企画などのために25年間にわたってどのように努力してきたか考えれば、民間交流の大切さを分かるとともに、札幌とノボシビルスクの姉妹都市関係の更なる発展に自信を持つようになります。

そして、その25年の間に東北アジアにも札幌とノボシビルスク共通の姉妹都市ができました。それは私たちが国際交流発展のために進んでいる道が間違いなく正しいという証明だと思っております。

これからも、共通の目的や課題がたくさんありますので、両市が協力しながら世界の平和のため努力していくように、心から希望しております。

改めまして、両市の市民が、引き続き両国及び両市の発展のためにご活躍されますことをお祈り申し上げますとともに、姉妹都市・札幌の市民の皆様へ25周年をお祝い申し上げます。

姉妹都市提携25周年記念事業を振り返って

札幌からノボシビルスクへ

2015年(平成27年)6月、札幌市の市民訪問団22名が両市の姉妹都市提携25周年を祝うため、ノボシビルスク市を訪問しました。

ノボシビルスク滞在中は、5周年ごとに調印している姉妹都市関係の促進に関する宣言文の調印式をはじめ、ノボシビルスク市民にとって欠かせない創建を祝う「まちの日」のイベントなどに参加しました。

～ノボシビルスクでの主な行事～

【6月24日～6月29日 市民訪問団】

- 6月25日(木) ・トルストイ図書館市民交流会
・ノボシビルスク国立グリンカ音楽院視察
- 6月26日(金) ・ノボシビルスク国立経済・経営大学視察
・シベリア・北海道文化センター主催友好の夕べ
(シベリア・北海道文化センター)
- 6月27日(土) ・姉妹都市提携25周年記念式典・調印式(ノボシビルスク市役所)
・創建記念日「まちの日」記念コンサート視察(ノボシビルスク鉄道文化会館)
- 6月28日(日) ・創建記念日「まちの日」記念式典出席(ノボシビルスク市役所)
・日本文化祭(ノボシビルスク市立美術センター)

◆ ～姉妹都市提携25周年記念式典及び調印式～

6月27日(土)、ノボシビルスク市役所大ホールにおいて、札幌市からの訪問団を含め、約150名の両市関係者及びノボシビルスク市の他の姉妹都市関係者が見守る中、「姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言書」の調印が行われました。公務の都合によりノボシビルスクを訪問できなかった秋元札幌市長に代わり、訪問団長を務めていた公益財団法人札幌国際プラザ上田理事長が秋元市長の署名入りの宣言文をノボシビルスクへ届け、その宣言文にローコチ市長が署名をする形で調印が行われました。



宣言文を披露する札幌国際プラザ理事長



記念品の交換

◆ ～ノボシビルスク市創建を祝う「まちの日」イベント～

6月27日(土)、ノボシビルスクの創建を祝う「まちの日」記念コンサートが開かれました。また、28日(日)には、ノボシビルスク市役所でオープニング記念式典が行われ、札幌市を含むノボシビルスク市の姉妹都市関係者から祝辞が述べられました。



「まちの日」記念コンサート



記念式典で挨拶するノボシビルスク市長

◆ ～市民訪問団の交流～

ノボシビルスク滞在期間中には、トルストイ図書館やノボシビルスク国立経済・経営大学の訪問、日本文化祭への参加、札幌での公演経験もある指揮者、故アーノルド・カッツ氏の名前を冠したコンサートホールでのジャズコンサート鑑賞、ホームビジットなどの様々な市民交流プログラムを実施し、ノボシビルスク市民と今後の更なる友好を誓い合いました。



市民交流のひとつま

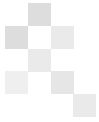


学生ボランティアから日本語で説明を受ける訪問団

ノボシビルスク市民にとって欠かせない大切な日「まちの日」 ДЕНЬ ГОРОДА НОВОСИБИРСКА

1987年に当時の政府機関からの指示により、ノボシビルスクの100周年記念の年である1993年7月3日～4日に創建を祝うイベントとして、1回目が開催されました。以来、毎年行われ、ノボシビルスク市民にも大好評のイベントとなっています。最近では、6月の最終日曜日にメインイベントが行われ、その前の一週間も様々な行事が開催されています。主なイベントとして子供向けのコンクール、若者向けのポップミュージックコンサート、クラシック音楽、バレエ、民族舞踊、民謡コンサートや展示会などが行なわれます。また、都心部の広範囲を歩行者天国にして、通りにはノボシビルスクの商品やお土産を紹介する店が並び、クラスヌイ大通りでは盛大なパレードが行われるなど、全市民のための楽しいプログラムが続き、夜11時ごろの花火で幕を閉じます。





ノボシビルスクから札幌へ

2015年(平成27年)10月、札幌で開催される姉妹都市提携25周年記念式典・祝賀会に出席するため、ノボシビルスク市のローコチ市長、アサンツェフ市議会議長をはじめとするノボシビルスク市訪問団5名が来札しました。

また、7月には、シベリア・北海道文化センターで日本語を学ぶノボシビルスク日本語青年訪問団7名が来札し、札幌市民との交流事業に参加しました。



～札幌での主な行事～

【10月13日～10月17日】

- 10月14日(水) ・札幌市議会議長表敬訪問(札幌市役所)
 - ・市民防災センター、札幌ドーム、札幌コンサートホール Kitara 等視察
- 10月15日(木) ・姉妹都市提携25周年記念式典・祝賀会(札幌全日空ホテル)
 - ・札幌市長表敬訪問(札幌市役所)
 - ・交通局南車両基地、札幌芸術の森等視察
- 10月16日(金) ・日本文化体験(札幌国際プラザ)
 - ・札幌中央卸売市場、白い恋人パーク等視察

◆ ～姉妹都市提携25周年記念式典・祝賀会～

10月15日(木)、札幌全日空ホテルを会場に、約150名の関係者が見守る中、記念式典・祝賀会が行われました。姉妹都市提携から四半世紀という節目の年であったことから、記念式典では次の新しい四半世紀を担うであろう多くの若者に参加していただきました。具体的には、6月に調印された姉妹都市関係の促進に関する宣言文を、ノボシビルスクから留学中のロマン・キセリさんが日本語で、札幌大学でロシア語を専攻する大村渚さんがロシア語で披露しました。また、7月に「姉妹都市少年交流事業」の一環でノボシビルスク市を訪問した札幌の中学生8名が、両市の姉妹都市関係の発展に向けた提言を行い、そのメッセージを両市長へ託しました。両市長による記念品交換では、札幌在住で両市が姉妹都市提携の調印を行った1990年生まれの手道家・長谷川悠貴さんの書「心」が、秋元市長からローコチ市長へ渡されました。



学生による宣言文の披露



姉妹都市の発展に向けた提言の発表



記念品を渡す札幌市長

祝賀会は、ノボシビルスクに音楽留学の経験があるソプラノ歌手松井亜樹さん（札幌大谷短期大学部保育科講師）と、高橋健一郎さん（札幌大学ロシア語学科教授）のピアノ伴奏によるミニコンサートが行われ、参加者の皆さんは華麗な歌声と演奏に聞き入っていました。



祝賀会でのミニコンサート



ノボシビルスク市訪問団の紹介

◆ ～ノボシビルスク市訪問団の活動～

訪問団は、秋元市長や鈴木札幌市議会議長への表敬訪問を行ったほか、初めての札幌訪問となったローコチ市長を筆頭に、札幌ドームや札幌芸術の森など札幌市を代表する施設を中心に精力的に視察を行いました。



市議会議長への表敬訪問



交通局車両基地の視察

◆ ～ノボシビルスク日本語青年訪問団～

平成20年度から毎年夏に、シベリア・北海道文化センターで日本語を学ぶ青年達で構成される日本語青年訪問団が札幌へ派遣されています。札幌側では提携団体である公財）札幌国際プラザが受入れを担当し、各種交流事業や市民向け公開事業など様々なプログラムを実施しています。

平成27年度は、7月3日から14日までの日程で7名の訪問団が札幌を訪れました。滞在中は、市内の日本語学校やボランティア教室で日本語を勉強するとともに、小学校や大学を訪れました。また、札幌国際プラザで開催している「レットークロシア語」に「ノボシビルスクスペシャル」としてゲストで参加し、ノボシビルスクを日本語とロシア語で紹介するなど、市民との交流を深めました。



青年訪問団による札幌市長表敬訪問



市内大学生との語学交流

25周年に札幌を訪れて

ノボシビルスク市議会議員 ドミートリー・アサンツェフ

(ノボシビルスク市訪問団の一員として札幌を訪問)



2015年10月、ノボシビルスク市訪問団の一員として札幌を訪問いたしました。このたびのノボシビルスク市訪問団による札幌訪問は、両市の姉妹都市関係発展のためとても大事な事業であったと思っております。

札幌滞在中は様々な施設や名所を視察でき、さらには日本の伝統文化に触れ合うこともできました。札幌は現代的な大都会であり、その点でもノボシビルスクと似ていると思います。さらに、ノボシビルスクでは常態化している交通渋滞がないこと、発達した地下鉄などの有効な公共交通を見学することができ、大変参考になりました。歴史のある古い建物が現代的なビルと隣接し、札幌の独特な風景が生まれています。日本文化は本当に魅力的です。

札幌では温かく歓迎していただき、本物の日本のおもてなしを感じられました。今度は、我々ノボシビルスク市民が、札幌市の皆様の来訪を楽しみにしております。

ノボシビルスク訪問を振り返って

公財) 札幌国際プラザ外国語ボランティア 樋口 保夫

(市民訪問団としてノボシビルスクを訪問)

姉妹都市提携25周年の2015年6月に、市民訪問団の一員としてノボシビルスクを訪問しました。

商社勤務も含め40年余り、ソ連邦及びロシアとの貿易業務で、首都モスクワをはじめ多くの都市に行きましたが、ノボシビルスクを訪れる機会には恵まれませんでした。

シベリア中心都市で唯一の100万人都市は、「ロシア科学アカデミー・シベリア支部」「シベリア鉄道最大の駅舎を有する」等々、かねてより耳にしていたので、折があれば訪れてみたいと思っておりました。

ソ連崩壊後早や四半世紀が経ち、ソ連がウラル以東で最も力を入れていた「ノボシビルスク」という街が、どのような変化を遂げつつあるのか強い興味を持って参加した次第です。

中心部に残されている巨大なレーニン像に、この大きな都市は、社会主義は放棄したものの「レーニン」という偉大なレガシーを温存することが、社会の安定剤になっているのではないかと印象を受けました。そして、ソ連時代には、教会の十字架は全てもぎ取られていたのが、今は塔の上に輝き信者が集うのを見ると、70年以上も宗教を否定されていた時が流れたにも関わらず、脈々とロシア正教が受け継がれていたことを実感しました。

札幌国際プラザで活躍している歴代の交流員の方々が、日本語をマスターされ「シベリア・北海道文化センター」で活発な交流事業をされていること、ホームビジットでの温かいおもてなし、北極海に注ぐ大河「オビ」の雄大な眺め、囲碁が両市の交流のきっかけであったことを知ったり、そしてその囲碁大会に参加できたのは、囲碁好きの小生にとって望外の喜びでした。

また交流の一環としてのロシア語でのスピーチ「札幌の年金生活者の暮らし」。

仕事以外でのこのような旅は、想像以上の心の収穫になりました。

この経験を糧に、両都市についてさらに学びつつ、市民交流に何らかのお手伝い出来ればと感じております。

今回の交流訪問に御骨折りました皆様にご感謝申し上げますとともに、今後益々この交流の輪が広がりますようお願いしております。



年金生活についてロシア語で説明する
樋口さん

姉妹都市提携への道のり



姉妹都市提携調印式（1990年）

「シベリア博」を機に友好関係

1974年（昭和49年）札幌市で「シベリア博」（主催：北海道、札幌市、北海道新聞社）が開かれた。7月20日から8月11日にかけて3週間開かれた博覧会は、多くの市民の関心を集め、約17万人の来場者があった。展覧会ではシベリアの豊かな自然環境や石油コンビナートなど大規模な開発の様子が展示され、シベリアの中心都市としてノボシビルスク市も紹介された。

この動きを受け、市民団体が中心となって、札幌市と歴史、規模や地域の中心地であるなど共通点の多いノボシビルスク市と市民レベルでの交流が始まり、1984年（昭和59年）桂助役（当時）が札幌市の特別職としてはじめてノボシビルスク市を訪問、同年ノボシビルスク市オレイニコフ助役が来札した。さらに、翌年には両市長の相互訪問が実現した。行政レベルでの交流の他、芸術・文化、スポーツ、青少年交流など各分野にわたって着実に交流実績が積み重ねられ、ホームステイの実現など市民レベルでの交流も拡大していった。また、1980年代後半のソビエト連邦でのペレストロイカの進展も、近くて遠いイメージが強かった日ソ両国の関係を縮める追い風となったといえる。

こうした市民交流の活発化を背景に、1989年（平成元年）5月、札幌市議会で両市の友好促進決議が採択された。さらに、1990年（平成2年）3月には、札幌市議会が「姉妹都市提携に関する決議」を採択。翌4月には、ノボシビルスク市議会においても採択され、両市の姉妹都市提携が承認された。

インディノク市長を迎え提携調印

1990年（平成2年）6月、インディノク・ノボシビルスク市長（当時）、レーピン・ノボシビルスク国立教育大学学長、フロロワ・ノボシビルスク・札幌友好協会会長ら6人のノボシビルスク市代表団が姉妹都市提携調印のため来札。13日、札幌グランドホテルにおいて、板垣札幌市長（当時）とインディノク市長との間で「提携盟約書」と「両市間交流に関する覚書」が調印され、記念として、札幌市から日本人形2体、ノボシビルスク市からクロテンの剥製壁掛の記念品交換が行われた。

また、この調印式の席上、北海道教育大学札幌分校と、ノボシビルスク国立教育大学の間で、研究者の相互派遣や共同研究などを目的にした交流協定も結ばれた。

同年8月、ノボシビルスク市代表団に対する答礼を目的に、市議会代表団と経済調査団の札幌商工会議所の代表も含めた板垣市長を団長とする総勢22人の札幌市訪問団がノボシビルスク市を訪れた。21日、子供劇場前の公園で両市長により記念植樹が行われた後、提携記念式典では、約300名のノボシビルスク市民が見守る中、両市長により「姉妹都市間友好と協力の発展に関する声明書」が調印され、板垣市長に外国人として初めてノボシビルスク市名誉市民の称号が授与された。併せて、提携記念式典の席上、札幌国際交流プラザとノボシビルスク100年基金財団の提携調印が行われた。

その後、覚書に盛り込まれた30項目の具体的な交流プログラムに基づいた広範囲に渡る交流事業が実現され、これらの事業をきっかけに様々な分野・レベルでの交流が活発化した。



ノボシビルスクのメインストリート

特徴ある姉妹都市交流

ノボシビルスク市は、アメリカ・ポートランド市、ドイツ・ミュンヘン市、中国・瀋陽市に続く4番目の姉妹都市であるが、それまでの姉妹都市提携と比較して、いくつかの大きな特色がある。

まず、他の三都市の場合、縁組の話が持ち上がり、正式に提携調印を行う頃から市民同士の友好が深まっていたが、ノボシビルスク市との縁組は、これとは対照的に、地道な交流の積み重ねによりある程度の実績を積み上げ、交流発展の可能性を見極めた上で調印に至ったという点があげられる。

もう1つは、交流を促進するため、高い目標が掲げられたということがあげられる。当時、ソ連の都市との交流を長続きさせるのは、政治体制の違いなど様々な事情から難しいと考えられており、事実、日本とソ連の姉妹都市は交流が停滞しているものが多く見受けられる状況であった。そこで、札幌から遠く離れ、市民にもまだあまり馴染みのなかったシベリアの街とあえて姉妹都市になるからには、次の2つの目標を持つということになった。1つめは、両国間における姉妹都市交流の手本となるような関係を目指すこと。2つめは、3つの先輩姉妹都市との交流レベルにできるだけ早く近づこうということ。これらの目標を実現するため、提携調印書と同時に、文化、学術、経済、青少年・スポーツなど、30項目に及ぶ交流拡大に関する

覚書が両市長の間で交わされた。結果として、この覚書が交流拡大の起爆剤となり、その後市民レベルの交流が着実に根づいていった。

これからの交流拡大に向けて

1990年(平成2年)の提携当時は、ソ連という国を抜本的に改革しようと現れた若き指導者ゴルバチョフ氏が世界の注目を集めていた時代であったが、それから僅かの間に、ソ連そのものが消滅、そしてロシア連邦の誕生と、社会経済体制が大きく変わる歴史的な過渡期を経験した。これに伴う混乱の中で、両市の姉妹都市交流にも少なからず影響があったと言える。特に、長引く経済の低迷により、特に経済分野を中心とした交流は残念ながら提携当初ほどの活発さは見られない状態が続いていた。

しかし、提携以来、文化、芸術、スポーツ、青少年施策、語学などの分野での交流が途切れることなく継続し、時代の交流を担う人材も育成されつつある。

今後は、これまでの姉妹都市交流の成果を尊重しつつ、相互に関心のある分野での情報交換を進め、両市の交流の発展と新たな交流の促進を目指していく。



ノボシビルスク誕生記念公園



交流の足跡

～ 提携前 ～

1974年(昭和49年)

7～8月 ▶北海道立産業共進会場で開催された「シベリア博」(主催:北海道、札幌市、北海道新聞社)にノボシビルスク市から参加。

1976年(昭和51年)

8月 ▶藤間琴苑日本舞踊団一行45名が公演のため、ノボシビルスク市を訪問。

1979年(昭和54年)

▶日ソ協会札幌支部代表団20数名がノボシビルスク市を親善訪問。

1981年(昭和56年)

8月 ▶日ソ協会札幌支部代表団22名がノボシビルスク市を親善訪問。

1984年(昭和59年)

4月 ▶ハバロフスク市で開催された「第1回日ソ極東北海道友好交流会議」参加の際、桂札幌市助役が初めてノボシビルスク市訪問。

5月 ▶ノボシビルスク市民45名を含むソ連訪日観光団300名が来札。

10月 ▶サハリ州姉妹友好都市代表団の一員としてノボシビルスク市オレイニコフ・ノボシビルスク市助役が来札。

1985年(昭和60年)

6月 ▶札幌で開催された「第2回日ソ極東北海道友好交流会議」にチキニョフ・ノボシビルスク市長、ボーコフ・ノボシビルスク州知事、市民など10名が来札。ノボシビルスク市の子供の絵45点を持参し、札幌市役所ロビーで展示会開催。

7月 ▶板垣札幌市長一行4名がチキニョフ・ノボシビルスク市長の招待により訪問。札幌の子供の絵50点を持参し、ノボシビルスク

市立絵画ギャラリーで展示会開催。

8月 ▶札幌大学ソ連親善旅行団16名がノボシビルスク市を訪問。

9月 ▶ノボシビルスクアンサンブル札幌公演。

1986年(昭和61年)

8月 ▶北海道日ソ親善協会主催第1回ノボシビルスク友好訪問団(団長:山崎七郎市議会副議長)15名がノボシビルスク市を訪問。

11月 ▶オレイニコフ・ノボシビルスク市助役およびノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団16名が来札。

▶ノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団と小沢輝佐子舞踊団が、札幌市及びノボシビルスク市にて日ソ合同公演開催。

1987年(昭和62年)

4月 ▶日ソ協会北海道連合会主催訪ソ親善視察団125名のうち65名がノボシビルスク市を訪問。

9月 ▶「第3回日ソ極東北海道友好交流会議」に参加した桂札幌市助役が部門別地方都市会議でノボシビルスク市を訪問。

▶ノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団と小沢輝佐子舞踊団がハバロフスク市にて第3回日ソ極東北海道友好交流会議記念合同公演を開催。

10月 ▶両市の動物園間で動物交換

【札幌市→ノボシビルスク市】

・ニホンザル5頭・ニホンキジ2頭・レインボーボア3頭・タイワンスジゴ3頭・アオダイショウ3頭・ふ卵器

【ノボシビルスク市→札幌市】

・ベルシャヒョウ2頭・カワウソ2頭

1988年(昭和63年)

5月 ▶板垣札幌市長の招待によりチキニョフ・ノボシビルスク市長一行来札。市議会本会議場でチキニョフ市長演説。

- 7月 ▶札幌市職員1名がノボシビルスク市役所で10日間研修。
- 9月 ▶札幌日ソ親善協会代表団(団長:竹田現照理事長)がノボシビルスク市を親善訪問。
- 10月 ▶ノボシビルスク国立大学の学生1名が札幌大学金子助教授宅で2カ月間ホームステイ。以後、両大学間で短期ホームステイによる学生相互交流を行うことで合意。
- 11月 ▶ノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団が来札し、小沢輝佐子舞踊団と合同公演開催。
▶両市で写真交換実施(札幌市から約40点、ノボシビルスク市から約60点)。
- 12月 ▶澄川中学校の中川速男教諭が、札幌市民として初めてノボシビルスク市で1カ月間ホームステイ。

1989年(平成元年)

- 1月 ▶札幌国際交流プラザでノボシビルスク市写真展開催。
- 2月 ▶さっぽろ・ノボシビルスク友好協会設立(代表:富田新一札幌市議会議員)。
- 5月 ▶第1回臨時市議会で「札幌市とノボシビルスク市との友好促進に関する決議」を全会一致で採択。
- 6月 ▶札幌市・札幌市議会代表団(桂札幌市助役、吉野札幌市議会議長ほか)が、インディノク・ノボシビルスク市長の招待によりノボシビルスク市を訪問。ノボシビルスク市長に「友好促進決議」を手交。
- 8月 ▶日ソ協会札幌支部の代表団3名が、ソ日協会ノボシビルスク支部の招待によりノボシビルスク市を訪問。
▶さっぽろ・ノボシビルスク友好協会の招待により、ノボシビルスク市から青年文化交流団一行13名が来札し、2週間から50日間のホームステイ。
▶「第1回札幌カップ国際スケート大会」に参加するため、ノボシビルスク市から少年アイスホッケーチームと女子フィギュアスケート選手来札。
- 10月 ▶小沢輝佐子舞踊団とノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団がノボシビルスク、モス

クワ、東京の3会場で合同公演開催。

- ▶札幌市の招待により、「第14回札幌国際マラソン大会」に参加するため、ノボシビルスク市から役員1名、選手3名来札。
- ▶「第4回極東会議」(札幌開催)に参加するため、ノボシビルスク州代表団(団長:カサウーロフ州副知事ほか15名)が来札。

1990年(平成2年)

- 3月 ▶ノボシビルスク・札幌友好協会設立(会長:フロロワ・ノボシビルスク国立大学言語学部助教授)。
▶第1回定例市議会で「札幌市とノボシビルスク市との姉妹都市提携に関する決議」を全会一致で採択。
- 4月 ▶ノボシビルスク市議会で、両市の姉妹都市提携を全会一致で承認。
▶札幌国際交流プラザで「ノボシビルスクを知るセミナー」を4回シリーズで開催。

～提携後～

6月 ○姉妹都市提携調印

ノボシビルスク市提携調印代表団(インディノク市長ほか6名)を迎え、札幌グランドホテルで調印式及び記念祝賀会を開催。

また、北海道教育大学札幌分校とノボシビルスク国立教育大学の間で交流協定調印。(13日)



提携調印式で握手を交わす両市長

- 7月 ▶北海道大学経済学部とソ連科学アカデミー・シベリア支部「経済・工業生産組織研究所」が研究交流協定調印。

- 7～8月 ▶ソ連科学アカデミー・シベリア支部「経済・工業生産組織研究所」副所長兼経済誌「EKO」編集長ワレリー・クリシヨフ氏を札幌市が招待。経済分野における相互理解を目的として、天神山国際ハウス、札幌国際交流プラザ、北海道大学の3ヵ所で経済セミナー開催。
- ▶ノボシビルスク音楽協会の音楽家2名(男性ピアニスト、女性声楽家)が来札。道庁赤レンガ音楽祭、札幌国際交流プラザなど、市内で演奏会を開催。
- ▶さっぽろ・ノボシビルスク友好協会会員及び札幌の大学生30名がノボシビルスク市を親善訪問し、約1カ月間のホームステイなど市民同士の交流を深める。

- 8月 ▶瀋陽市で開催された「姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流」(種目:男子柔道)にノボシビルスク市が初参加。
- ▶日ソ協会札幌支部代表団3名(団長:竹田正直支部長)が、日ソ協会ノボシビルスク支部の招待でノボシビルスク市を親善訪問。

○姉妹都市提携記念事業 [札幌市→ノボシビルスク市]

板垣札幌市長を団長とする姉妹提携記念友好訪問団22名(市長団3名、市議会代表団8名、経済代表団11名)がノボシビルスク市を訪問。提携記念式典において「姉妹都市間友好と協力の発展に関する声明書」に調印。

- 9月 ▶「札幌国際親善の集い」主催文化交流団(団長:谷口良一会長)25名がノボシビルスク市を親善訪問。日本舞踊、生花、茶道など、日本の伝統芸能をノボシビルスク市民に紹介。
- ▶日ソ協会ノボシビルスク支部代表2名(フルストフ部長、パブロワ書記)が、日ソ協会札幌支部の招待で来札。札幌国際交流プラザで「ノボシビルスク市紹介セミナー」等を開催。
- ▶北海道放送(株)とノボシビルスク・テレビラジオ委員会が業務交流協定調印。富原社長ほか3名がノボシビルスク市を訪問。
- 10月 ▶札幌天神山国際ハウスで「ノボシビルスク市展」開催。ノボシビルスク市の写真パネル、民芸品等を展示。
- ▶札幌日ソ親善協会主催札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念公演「ロシア・クラシ

ックバレエの星」を札幌市民会館にて開催。

- ▶第1回札幌国際交流プラザ文化・経済使節団(団長:秋山孝二(株)秋山愛生館専務)12名がノボシビルスク100年基金財団との提携プログラムとしてノボシビルスク市訪問。ビジネス、医療、教育、音楽、演劇、図書等の分野で交流を深める。
- ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「シベリア展」開催(主催:北海道日ソ友好文化会館・札幌市、協賛:ソ連科学アカデミー・シベリア支部)。期間中、科学アカデミー・シベリア支部代表団6名を迎え、天神山国際ハウスで講演会開催。

- 11月 ▶ノボシビルスク市経済関係者7名(団長:ノボシビルスク航空機企業公団総裁)が商談のため来札。

▶ノボシビルスク100年基金財団理事長シャーマン氏と同財団書記ネブモベンコ氏の2名が、札幌国際交流プラザとの交流打合せのため来札。関係各所との懇談及びプラザ・サロンディスカッションに出席。

▶ソ連科学アカデミー・シベリア支部「歴史・言語・哲学研究所」所長テレビヤンコ氏が、札幌大学考古学研究室との共同研究のため来札。

- 11～12月 ▶ノボシビルスク・札幌友好協会副会長クロボチキン氏が市民交流推進のため、さっぽろ・ノボシビルスク友好協会の招待により来札。

- 12月 ▶ソ連科学アカデミー・シベリア支部「歴史・言語・哲学研究所」研究員2名が、遺跡調査における写真測量技術研修のため来札。

▶札幌姉妹都市協会と札幌国際交流プラザが窓口となり、ノボシビルスク市民に医薬品を贈るための募金活動開始。(募金期間:1991年2月15日まで、募金総額:約550万円)

1991年(平成3年)

- 1月 ▶ノボシビルスク国立グリニカ音楽院グレンコ学長、同学院アントン・バラホフスキー氏(バイオリニスト)ほか1名が、北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の招待により来札。「第3回ハイメス・チャリティー・コンサート」で札幌交響楽団と共演したほか、札幌国際交流プラザ・ノボシビルスク100年基金財

団主催「バラホフスキー新春バイオリンリサイタル」を開催。

- 2月** ▶ノボシビルスク観光経済訪問団一行23名が、「札幌国際親善の集い」（会長：谷口良一氏）の招待により来札。企業訪問、観光セミナー等を行う。滞在中、「眼科マイクロサージェリー」ノボシビルスク支部長が札幌医科大学で講演。来札中の同訪問団に、ノボシビルスク市民への第1次支援医薬品目録を贈呈。
- ▶「第18回国際雪像コンクール」にノボシビルスクチーム4名が初参加。
- 3月** ▶ノボシビルスク市経済代表団7名（団長：ゴロデツキー・ノボシビルスク市副市長）が札幌市の招待により来札。札幌商工会議所をはじめ、市内関係企業を訪問。来札中のノボシビルスク市経済代表団にノボシビルスク市民への第2次（最終）支援医薬品目録を贈呈。
- 4月** ▶ノボシビルスク国立交響楽団首席指揮者アーノルド・カッツ氏が、国際ソロブチミスト札幌の招待により来札。国際ソロブチミスト札幌認証20周年年記念「札幌の夕べ」において、ピアニスト中村紘子氏を迎え札幌交響楽団を指揮。
- 5月** ▶シベリア新聞編集長ユケチョフ氏ほか2名が、北海道新聞社との協力協定に基づく記者交換の一環として来札。
- ▶さっぽろ東急デパートのカメラ祭期間中、ノボシビルスク市の写真クラブ「ムードリエッツ」から提供された芸術写真48点を展示。
- 6月** ▶シベリア・極東地方との新たな地域間交流を図るため、札幌青年会議所がノボシビルスク市ほか2都市（ウラン・ウデ、ウラジオストク）に訪問団を派遣。
- 7月** ▶ノボシビルスク100年基金財団在モスクワスタッフのドミートリー・コーベッツ氏を札幌国際交流プラザの研修スタッフとして1カ月間受入れ。
- ▶北海道新聞社の招待により、ノボシビルスク・ファッションハウスの一行15名が来札。京王プラザホテルにて、「シベリア・ファッションショー」を開催。（20日）
- 7～8月** ▶第1回ノボシビルスク少年交流派遣団団長稲童丸札幌市白石区長）がノボシビルスク市訪問。ノボシビルスク市の少年たちと交

流を深める。

- 8月** ▶HBCジュニアオーケストラ一行79名（団長：松尾HBC事業局長）が、親善公演のためノボシビルスク市を訪問。グリーンカ音楽院、アカデムゴロドク学会館ホールにてコンサート開催（3,4日）。また、これに合わせ、日ソ協会札幌支部友好訪問団28名（団長：菊田札幌市議会議員）がノボシビルスク市訪問。
- 9月** ▶札幌演劇鑑賞協会との「相互招待に関する覚書」（1991.6.9締結）に基づく交流のため、ノボシビルスク国立劇場「クラスヌイ・ファケル」代表団が来札。
- 10月** ▶日ソ協会札幌支部との交流のため、ソ日協会ノボシビルスク支部事務局長及び対文連ノボシビルスク支部事務局長の2名が来札。札幌市婦人文化センターで行われた札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「ロシア語詩のつどい」（主催：日ソ協会札幌支部・札幌姉妹都市協会、参加総数80名）に特別ゲスト出演。（8日）
- ▶グリーンカ音楽院の招待により、札幌大谷短期大学藤田道子教授がノボシビルスク市を訪問し声楽指導。
- ▶「第2回札幌カップ国際スケート大会」参加のため、ノボシビルスク市からアイスホッケーチームが来札。
- ▶ノボシビルスク国立大学研究交流団が北海道大学理学部との地質研究のため来札。
- 11月** ▶ノボシビルスク市役所一行（国際部長、商工部長、建築・建設局次長）が、ノボシビルスク市商品常設展示場開設の協議のため来札。また、札幌国際プラザにおいて「最近のノボシビルスク市民の生活について」をテーマに講演を実施。
- 11～12月** ▶ノボシビルスク市で開催された「第5回シベリア見本市」（12月4～8日）への出展及び札幌市商品常設展示コーナー開設のため、札幌市から古田経済企画課長ほか3名、対ソ貿易会社等から6名がノボシビルスク市訪問。札幌市常設展示コーナーはノボシビルスク市郷土博物館2階（50㎡）に設置され、オープン記念式典では、インディノク市長と古田課長がテープカットを行った。（9日）

1992年(平成4年)

- 1～2月 ▶ ノボシビルスク・札幌友好協会の会員であるノボシビルスク国立大学日本語学科の学生一行11名がさっぽろ・ノボシビルスク友好協会(会長:富田新一氏)の招待により来札。
- ▶ 「第19回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム4名が参加。Bグループ優勝を飾る。
- 2月 ▶ 日本文化を通じて北海道とロシアの交流を図ることを目的として、北海道・ロシア囲碁協会(会長:根本清一氏)が札幌に設立。
- 3月 ▶ ロシア科学アカデミー・シベリア支部ドブレツォフ第一副総裁が北海道大学理学部の招待により来札。北海道大学理学部と科学アカデミー・シベリア支部「地質学・地球物理学・鉱物学連合研究所」との学術交流協定に調印。
- ▶ アイセック(国際経済商学学生協会)北海道大学委員会代表5名が、アイセック・ノボシビルスク委員会と姉妹団体提携を行うためノボシビルスク市を訪問。
- 3～4月 ▶ 北海道・ロシア囲碁協会のメンバー8名が、「北海道・ロシア文化センター」建設について協議するため、ノボシビルスク市訪問。
- 5月 ▶ 日ソ協会札幌支部の招待により、ノボシビルスク市のアンサンブル「ミール」が来札。札幌第2ワシントンホテルで行われた「ロシア料理と民謡の夕べ」へ出演したほか、ザルuterホテルでコンサートを開催。
- ▶ 札幌演劇鑑賞協会のメンバー5名が、ノボシビルスク国立劇場「クラスヌイ・ファケル」との相互交流の一環として、ノボシビルスク市を訪問。
- ▶ 札幌青年会議所のメンバー25名が、ノボシビルスク100年基金財団との交流のため、ノボシビルスク市を訪問。
- ▶ 日ソ協会札幌支部と札幌姉妹都市協会との共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「ロシア語詩のつどい」開催。来札中のノボシビルスク市のアンサンブル「ミール」が特別出演。(参加者総数117名)
- ▶ ノボシビルスク製品常設展示コーナー開場式出席のため、タラコンスキー・ノボシビルスク市第一副市長を団長とする代表团4名が来札。アクセスサッポロでの開場式(22日)のほか、札幌国際プラザで開催された経済セミナーで講演(テーマ:ノボシビルスク市の社会経済の現状と今後の展開について)。また、ロシア文学図書375点と児童絵画46点が札幌市に寄贈される。
- 6月 ▶ ノボシビルスク100年基金財団との音楽・文学交流のため、北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の代表团3名がノボシビルスク市を訪問。
- 6～7月 ▶ 札幌天神山国際ハウスで「ノボシビルスク市児童絵画展」を開催。
- 6～8月 ▶ 科学アカデミー・シベリア支部の協力により、月寒グリーンドームで開催された「コミュニケーションワールド'92(コム博)」の国際交流館に、ロシア・マンモスの祖先トロゴンテリー象の全身骨格を展示。
- 7月 ▶ 札幌国際プラザ主催「第1回日米露学生集中講座」に参加するため、ノボシビルスク市の大学生6名が来札。
- ▶ 北海道大学理学部地質学鉱物学教室の渡辺助教授ほか8名が、科学アカデミー・シベリア支部訪問。
- 7～8月 ▶ 久富淑子バレエ研究所の招待により、ノボシビルスク舞踊学校教授及びバレエダンサーが来札。教育文化会館にて同舞踊学校留学生帰国報告バレエ公演を開催。(7月30日)
- ▶ 札幌市のロシア語研修生1名が、ノボシビルスク市役所で1カ月間行政研修。
- 8月 ▶ ドイツ・ミュンヘン市で開催された「姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流」(種目:男子バレーボール)にノボシビルスク市が参加。
- ▶ 日ソ協会札幌支部代表3名と合気道「合気会北海道支部」代表5名がノボシビルスク市を親善訪問。
- ▶ 魚住札幌市助役が、イルクーツクで開催された「第5回日ロ極東シベリア・北海道各界代表者会議」に出席の折、ノボシビルスク市を訪問。
- ▶ 北海道大学経済学部との研究交流のため、ロシア科学アカデミー「経済・工業生産組織研究所」所長のワレリー・クリショフ氏が来札。
- 9～10月 ▶ 日ソ協会札幌支部が、札幌国際プラザ「プ

ラザ]でノボシビルスク市児童絵画展開催。

▶「第17回札幌マラソン」の招待選手として、ノボシビルスク市からニハロシコフ団長ほか選手3名が来札。

▶グリーンカ音楽院グレンコ学長を団長とする同音楽院代表団4名が、北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の招待により来札。札幌をはじめ道内6都市でオペラコンサートを開催。

10月 ▶ノボシビルスク市と北海道・ロシア文化協会(会長:根本清一氏)が計画を進めている北海道・ロシア文化センター(現シベリア・北海道文化センター)の建設問題について協議するため、ノボシビルスク市プガチョフ副市長(建設担当)とサンダコフ国際部長が来札。

10~11月 ▶北海道国際ナショナルダンスシアター小沢輝佐子舞踊団が主催する「1992年国際交流提携北方圏舞踊集団創立記念合同公演」に参加するため、ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団9名(団長:プロツキー支配人)が来札。11月1日、北海道厚生年金会館にて、ロシア、中国、カナダ、日本の4カ国により「さまざまな雲」を公演。
▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」の一環として、第1回ノボシビルスク少年団12名が来札。桑園小学校や東陵高校などの学校訪問やホームステイなどにより、札幌の子供たちと交流を深める。

12月 ▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の交流団が、グリーンカ音楽院を訪問。邦楽の授業、コンサート等を行ったほか、琴や楽譜を寄贈。また、同音楽院附属日本音楽文化センターが設立される。

▶企業視察や学生同士の意見交換を行うため、アイセック・北海道大学委員会の招待により、アイセック・ノボシビルスク国民経済大学委員会代表5名が来札。

1993年(平成5年)

1月 ▶ノボシビルスク市100年基金財団シャーモフ理事長とグリーンカ音楽院学生エテリグワザワ氏(ソプラノ)が北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の招待により来札。ハイメス主催チャリティー・ニューイヤー・コンサートに出演。

2月 ▶「第20回国際雪像コンクール」に参加するため、ノボシビルスク市チーム4名が来札。

▶ノボシビルスク市建設公社支配人ほか1名が、北海道・ロシア文化センター(現シベリア・北海道文化センター)の建設について技術的な打合せを行うため来札。

4月 ▶北海道・ロシア文化センター(現シベリア・北海道文化センター)建設の打合せのため、北海道・ロシア文化協会代表5名がノボシビルスク市を訪問。

5月 ▶グリーンカ音楽院でパシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)参加オーディション開催。オーディション立会いのため、PMF組織委員会の田口氏がノボシビルスク市を訪問。

6月 ▶ノボシビルスク市開基100年記念「国際ナショナル・ジャズ・ウィーク」に、札幌のピアニスト室示戸亮二氏が招待参加。

▶ノボシビルスク市の「シベリア見本市」が取りまとめたシベリアの16企業58名が、「93札幌国際見本市」に出展のため来札。

▶ノボシビルスク市において、北海道大学理学部とノボシビルスク国立大学が教員交流や資料交換を目的とした協定を締結。

6月~7月 ▶ノボシビルスク市開基100年祭に参加するため、桂札幌市長を団長とする親善訪問団35名(市長団3名、札幌国際プラザ訪問団28名、北海道・ロシア文化協会訪問団4名)が、ノボシビルスク市を訪問。ノボシビルスク市中心部に位置するレーニン広場で100年記念祭開会式が行われ、ルツコイ・ロシア連邦副大統領、ムーハ・ノボシビルスク州知事とともに桂市長が祝辞を述べた。(7月3日)



ノボシビルスク開基100年記念祭開会式

- 7月 ▶ノボシビルスク市の少年野球チーム「サバリ
ヨーク(クロテン)」が来札。西岡小学校ほ
か、小樽、静内等で交歓試合を開催。
- 7～8月 ▶パシフィック・ミュージック・フェスティバル
(PMF) にノボシビルスク市の若手音楽家
2名が参加。
- ▶日口合同アンサンブル「ゼムリキー(同郷名)」
のソプラノ歌手ガリーナ・ザイツェワ氏とバヤン
奏者アナトーリー・ルーチン氏が来札。バルト
ンの中川速男氏と道内13ヵ所で公演を行う。
- 8月 ▶日口協会ノボシビルスク支部代表団(団長:タ
チアナ・パブロワ支部長)が、日本ユーラシ
ア協会札幌支部の招待により来札。うち4名
は、合気会北海道支部と合気道の親善交流
を実施。
- ▶札幌国際プラザにて、日本ユーラシア協会
札幌支部と札幌姉妹都市協会の共催により
「第3回ロシア語詩のつどい」開催。来札
中の日口協会ノボシビルスク支部代表団が
特別参加。(参加者60名)
- ▶札幌国際プラザ主催「第2回日米露学生集
中講座」にノボシビルスク市の大学生3名が参加。
- 10月 ▶エリツィン・ロシア連邦大統領が、ムーハ
・ノボシビルスク州知事を解任し、インディ
ノク・ノボシビルスク市長を新知事に任命。
- ▶インディノク・ノボシビルスク州知事がタラ
コンスキー・ノボシビルスク市第一副市長を
新市長に任命。
- 11月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」のため、
ノボシビルスク少年交流団12名が来札。
- 12月 ▶サンダコフ・ノボシビルスク市国際部長夫妻
が、北海道・ロシア文化協会との会館運営
協議のため、同協会の招待により来札。

1994年(平成6年)

- 1月 ▶北海道新聞社との記者交換でシベリア新聞
ユケチヨフ編集長が来札。札幌市長表敬訪
問や企業視察等を実施。
- 3月 ▶グリーンカ音楽院で開催されるパシフィック・
ミュージック・フェスティバル(PMF) ロシ
ア国内オーディション立会いのため、PMF
の職員2名がノボシビルスク市訪問。
- ▶札幌交響楽団が、ノボシビルスク交響楽団

- 首席指揮者アーノルド・カッツ氏を招聘し、
札幌、東京、大阪でコンサートを開催。
- 5月 ▶株式会社LINKSが商談のため、ノボシビ
ルスク市を訪問。
- 7月 ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第4回
ロシア語詩のつどい」開催。(参加者120名)
- ▶株式会社LINKSが商談のため、ノボシビ
ルスク市を再訪。タラコンスキー・ノボシビ
ルスク市長と会談し、市の協力を確認する。
- 7～8月 ▶ノボシビルスク市の若手音楽家5名が、パ
シフィック・ミュージック・フェスティバル
(PMF) 参加のため来札。
- ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、
札幌少年交流団12名が、イルクーツク、シ
ベリア鉄道経由でノボシビルスク市を訪問。
- ▶札幌国際プラザ主催「第3回日米露学生集
中講座」にノボシビルスク市シベリア独立
大学の学生3名が参加。
- 8月 ▶日本ユーラシア協会札幌支部代表団3名
が、ノボシビルスク・日口協会との交流のた
め、ノボシビルスク市を親善訪問。
- 8～9月 ▶ノボシビルスク日口協会パブロワ会長が、
日本ユーラシア協会の招待により来札。道
内各支部を訪問したほか、澄川中学校の英
語授業を見学。
- 9月 ▶株式会社LINKSが東急インロビーにロシ
アから輸入した民芸品の店「ラフカ」を開店。
- ▶株式会社LINKSがノボシビルスク市を訪問
し、「シベリア見本市」への出展参加を決定。
- ▶「第6回極東会議」参加のため、ノボシビ
ルスク代表団(団長:ヴォロノフ副市長)6
名が来札。滞在中、レーピン・ノボシビル
スク国立教育大学学長が、北海道教育大
学、北海道大学教育学部と交流したほか、
ノボシビルスク・モスビジネスバンク所長が
北海道拓殖銀行国際部を訪問。
- 10月 ▶日本ユーラシア協会札幌支部と札幌市の共
催により市役所ロビーで「ユーラシア児童画
展」を開催。ノボシビルスク市の児童画10
点を含む40点の絵を展示。
- 11月 ▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の藤
田道子、高垣幸子両氏が、グリーンカ音楽院
を訪問。日本音楽講座で指導を行う。

- 12月 ▶北海道・ロシア文化協会の根本会長一行が、北海道・ロシア文化センター（現シベリア・北海道文化センター）建設問題について話し合うため、ノボシビルスク市を訪問。
- ▶株式会社 LINKS が12月6日から9日まで「シベリア見本市」のジャパン・フェアを主催し、日本の商品を出展。
- ▶ノボシビルスク国立演劇場「クラスヌイ・ファケル」の支配人及びプロデューサーが、札幌演劇鑑賞協会との交流の一環として来札。

1995年(平成7年) 姉妹都市提携5周年

- 3～4月 ▶ノボシビルスク音楽協会所属の古典音楽アンサンブル「インストラ・マジカ」と「シャローモフ・ボーカル・アンサンブル」一行が、ピンネシリ・プロジェクトの招聘により来札し、札幌市と苫小牧市で公演。
- 5月 ▶ノボシビルスク音楽協会との文化交流の一環として、詩劇「ピンネシリ」ロシア公演のため、原子修芸術監督ほか13名がノボシビルスク市訪問。音楽コメディ劇場ほか2カ所で公演。

6月 ○姉妹都市提携5周年記念事業[ノボシビルスク市→札幌市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携5周年記念事業参加のため、タラコンスキー・ノボシビルスク市長ほか3名がノボシビルスク市代表団として来札。

16日(金)、ホテルロイトン札幌で記念式典・祝賀会が行われ、両市民合わせて約500名が参加。また、両市長立会いのもと、北海道国際音楽交流協会(ハイメス)とグリーンカ音楽院附属日本音楽文化センターとの間で、友好団体の提携調印。



5周年記念事業で日本文化体験

- ▶ノボシビルスク市長団の来札に合わせ、バレエファンタジアとノボシビルスク・ロ日協会代表一行が「バレエファンタジア実行委員会」の招待により来札。17日に山鼻中学校にて親善公演、19日に共済ホールにて5周年記念公演を開催。
- ▶姉妹都市提携5周年記念文化交流団として、グリーンカ音楽院附属日本音楽文化センターのドゥブロフスカヤ・センター長を団長とする音楽家一行が来札。16日に市民ロビーコンサート、17日に札幌国際プラザにて講演会「私と日本伝統文化」、20日には札幌サンプラザホールにてジョイントコンサートを開催。
- ▶姉妹都市提携5周年記念「第5回ロシア語詩のつどい」開催。来札中のノボシビルスク・ロ日協会代表団、「バレエファンタジア実行委員会」も参加。

- 7月 ▶ノボシビルスク州立人形劇団(団長:ピリユーリヤ支配人)一行6名が、姉妹都市提携5周年を記念して来札。『こぐま座』の夏休み特別公演で5回公演。

- 7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク少年交流団12名が来札。

▶札幌大学外国語学部の招聘により、ノボシビルスク市の大学生2名が来札。「ロシア語短期合宿夏期集中講座」で、アシスタント講師を務める。

▶パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)にノボシビルスク市の若手音楽家4名が参加。

- 8～9月 ▶札幌姉妹都市協会主催「市民海外姉妹都市派遣事業」派遣決定者の近藤文子さんが、研修先のノボシビルスク市訪問。(研修テーマ「ロシアのダーチャを訪ねて」)

- 9月 ▶札幌市初のロシア人国際交流員として、姉妹都市ノボシビルスク市からマリーナ・カリュジノワさんが来札。

○姉妹都市提携5周年記念事業[札幌市→ノボシビルスク市]

姉妹都市提携5周年記念札幌市訪問団(市長団4名、市議会代表団11名、文化交流団4名)がノボシビルスク市訪問。そのほか、ノボシビルスク・ロ日協会の招待

により日本ユーラシア協会代表团6名が、グリーンカ音楽院の招待により藤田道子、高垣幸子両氏が訪問。

6日、「シベリア・北海道文化センター」竣工式。

7日、ホテルシベリアにて5周年記念式典祝賀会開催。式典では「西暦2000年までの札幌市とノボシビルスク市の姉妹関係促進に関する宣言」に両市長が署名。

同日、グリーンカ音楽院コンサートホールにて、日ロジョイントコンサート開催。



シベリア・北海道文化センター竣工式

10月 ▶札幌教育文化会館で、詩劇「ピンネシリ」の姉妹都市提携5周年記念公演（ロシアからの帰国公演）開催。

▶北海道インターナショナルダンスシアター小沢輝佐子舞踊団主催「1995国際交流提携3カ国合同公演」参加のため、プロツキー・ノボシビルスク市副市長を団長とするノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団が来札。北海道厚生年金会館で公演。

10～11月 ▶地下鉄ふれあい広場展示コーナーで日本ユーラシア協会札幌支部主催「ノボシビルスク児童絵画展」開催。約50点の作品を展示。

1996年（平成8年）

1～2月 ▶「第23回雪像コンクール」に出場するノボシビルスク市チーム4名と親善訪問団4名が来札。ホームステイやさっぽろ・ノボシビルスク友好協会との交流を通じて市民との友好を深める。

2月 ▶北海道・ロシア文化協会一行4名が、シベリア・北海道文化センターのオープン祝賀行事打合せのため、ノボシビルスク市を訪問。

3月 ▶ノボシビルスク市長選挙で、現職のタラコンスキー・ノボシビルスク市長が当選。

6月 ▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第6回ロシア語詩のつどい」開催。

7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で札幌市少年交流団12名がノボシビルスク市訪問。

▶パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）にノボシビルスク市の若手音楽家1名が参加。

▶札幌大学外国語学部の招聘により、ノボシビルスク市の大学生1名が来札。「ロシア語短期合宿夏期集中講座」でアシスタントを務める。

▶シベリア・北海道文化センターがオープン。完成を記念して、北海道・ロシア文化協会一行と札幌市から田中交流課長がノボシビルスクを訪問。

8月 ▶「姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流事業」（種目：女子バレーボール）に、ノボシビルスク市チーム16名が参加。

11月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）高垣幸子氏がグリーンカ音楽院を訪問。音楽院40周年記念演奏会に出演、マスタークラスを指導。

1997年（平成9年）

2月 ▶「第24回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム4名が参加。

5月 ▶日本ユーラシア協会、ノボシビルスク・ロ日協会共催「'97日ユ友好北海道フォーラム」出席のため、ノボシビルスク・ロ日協会タチアナ・パブロワ会長が来札、桂市長を表敬訪問。

7月 ▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第7回ロシア語詩のつどい」開催。

7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、ノボシビルスク少年交流団11名が来札。

▶札幌大学外国語学部の招聘により、ノボシビルスク市の大学生2名が来札。「ロシア語短期合宿夏期集中講座」でアシスタントを務める。

10月 ▶日本ユーラシア協会の招聘により元グリーンカ音楽院教授でバイオリニストのザハール・

ブロン氏が来札。札幌コンサートホール Kitara でコンサート開催。

11月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の藤田道子、高垣幸子両氏がグリーンカ音楽院附属日本音楽文化センターを訪問。

12月 ▶ノボシビルスク交響楽団が公演のために来札。指揮者アーノルド・カツツ氏ほか2名が桂市長を表敬訪問。

1998年(平成10年)

2月 ▶「第25回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム4名が参加。

3月 ▶札幌駅北口連絡通路に姉妹都市コーナーがオープン。

7月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の受入事業として、グリーンカ音楽院助教教授補（日本音楽文化センター副センター長）ミハイル・ボグダーノフ氏が来札。1年間等の指導を受ける。
▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク出身のタイシヤ・チーナさんが来札。

7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で札幌市少年交流団12名がノボシビルスク市訪問。
▶日本ユーラシア協会北海道連合会の招待により、音楽レッスンとコンサートのため、グリーンカ音楽院教授2名（ピアノ、バイオリン）が来札。

8月 ▶「姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流事業」で札幌から女子バスケットボールチーム16名がノボシビルスク市を訪問。

9月 ▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第8回ロシア語詩のつどい」開催。

10月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の招聘により、グリーンカ音楽院附属日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤ氏が来札。講演会やコンサート等に出演。

1999年(平成11年)

2月 ▶「第1回姉妹都市フェスティバル」開催。

2～3月 ▶札幌市長期海外研修生1名がノボシビルスク市役所で1カ月半行政研修。

6月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の招

聘によりグリーンカ音楽院附属日本音楽文化センター副センター長アンドレイ・クガエフスキー氏が来札。

7月 ▶日本ユーラシア協会、ロ日協会共催「第5回日ロフォーラム・日本文化週間」がノボシビルスク市にて開催。同イベント出席のため、日本ユーラシア協会一行7名が同市を訪問。

▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク出身のイリーナ・プーリクさんが来札。

7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市少年交流団13名が来札。

8月 ▶「第6回札幌カップ国際アイスホッケー競技大会」に参加するため、ノボシビルスク市少年チーム一行22名が来札。

▶シベリア・北海道文化センター館長アレクサンドル・スピリドノフ氏が来札。桂市長等を表敬訪問。

9月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）に所属する13名の音楽家を含む一行17名が、ノボシビルスク及びモスクワにてコンサートを開催するためロシア訪問。

▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第9回ロシア語詩のつどい」開催。

11月 ▶札幌姉妹都市協会主催「海外姉妹都市派遣事業」により神原真純さんがノボシビルスク市を訪問。（研修テーマ「ロシアの現代美術を探る」）

12月 ▶北海道・ロシア文化協会の招待により、チュエルボフ・ノボシビルスク州議会議員及び建設会社「シベリア」社長が来札。建築技術、都市計画についての視察を行う。

2000年(平成12年) 姉妹都市提携10周年

1月 ▶ノボシビルスク州知事選挙において、タラコンスキー・ノボシビルスク市長が当選。

2月 ▶「第27回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム4名が参加。

▶「第2回姉妹都市フェスティバル」開催。

3月 ▶ノボシビルスク市長選挙において、ゴロデツキー・ノボシビルスク市第一副市長が当選。

6月 ○姉妹都市提携10周年記念事業 [札幌市

→ノボシビルスク市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携10周年記念札幌市訪問団34名(市長団4名、市議会代表団11名、国際プラザ訪問団11名、日本ユーラシア協会訪問団5名、その他3名)がノボシビルスク市訪問。

29日にノボシビルスク市役所にて10周年記念式典開催。「札幌市とノボシビルスク市の姉妹関係促進に関する宣言」に両市長が署名。

併せて、札幌国際プラザとノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター、北海学園大学とノボシビルスク国立大学との間で姉妹団体の提携調印が、日本ユーラシア協会札幌支部とロ日協会との間で協定書の調印が行われた。同日、シベリア・北海道文化センターにて両市の音楽家の合同演奏会、記念植樹が行われた。



10周年記念式典で調印を交わす両市長

7月 ▶大杉洋子バレエアカデミー、日本ユーラシア協会北海道連合会の招待でバレエダンサー3名(サクトペテルブルク・マリインスキー劇場ソリスト・ユリア・マハリナさん他ノボシビルスク市出身男性ダンサー2名)、国立ノボシビルスクバレエ学校教師1名、学生5名が来札。札幌市民会館にて日ロ合同で創作バレエ「夕づる」公演(19日)。

7~8月 ▶パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)にノボシビルスクの若手音楽家1名が参加。

▶姉妹都市提携10周年を記念し、北海道・ロシア文化協会代表団一行6名がノボシビルスク市を訪問。

8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、

札幌市少年交流団13名がノボシビルスク市訪問。

▶札幌・ノボシビルスク姉妹提携10周年記念ロシア国立劇場札幌公演実行委員会の招待により、ロシア国立ドラマ劇場「スターレイドム」一行17名が来札、3日から5日に札幌市教育文化会館にて「牡丹燈籠」を公演。

8月 ▶札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」にノボシビルスク市の大学生2名が参加。

○姉妹都市提携10周年記念事業[ノボシビルスク市→札幌市]

姉妹都市提携10周年記念行事参加のため、ゴロデツキー・ノボシビルスク市長ほか5名がノボシビルスク市代表団として、また、日本ユーラシア協会札幌支部の招待により、ロ日協会ノボシビルスク支部代表団4名が来札。

9日、ホテルロイトン札幌にて記念式典、大通8丁目ピアガーデンにて記念祝賀会が行われ、両市民合わせて約250名が参加。10日には、モエレ沼公園にて記念植樹が行われた。



モエレ沼公園に10周年記念植樹

9月 ▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第10回ロシア語詩のつどい」開催。

9~10月 ▶札幌姉妹都市協会主催「海外姉妹都市派遣事業」により高橋昭夫さんがノボシビルスク市を訪問。(研修テーマ「平均的な人々の生活状態、生活観念の観察」)

11月 ▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の招待によりグリーンカ音楽院附属日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤ氏が

来札。コンサートに出演。

2001年(平成13年)

- 1月 ▶元札幌市国際交流員マリーナ・カリュジノワさんが北海道教育大学札幌校に留学。
- 2月 ▶「第28回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム3名が参加。
▶「第3回姉妹都市フェスティバル」開催。
- 6月 ▶北海道・ロシア文化協会設立10周年記念式典・祝賀会に参加するため、プロツキー・ノボシビルスク市副市長、スピリドフ・シベリア・北海道文化センター館長が来札。
- 7月 ▶ノボシビルスク・フィルハーモニー管弦楽団が公演のため来札(4～5日にKitaraで公演)。指揮者アーノルド・カツ氏ほか4名が桂市長を表敬訪問。



ノボシビルスク・フィルハーモニー管弦楽団演奏会

- ▶札幌在住の剣士を中心とした北海道剣道連盟交流団5名が、ノボシビルスクとモスクワで実技指導及び段位審査を行う。
- ▶ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団団長セルゲイ・クルプコ氏が来札。大杉洋子バレエアカデミー、久富淑子バレエ研究所にてバレエ講習会に参加。
- ▶ノボシビルスク市で5月に開催された日本語スピーチコンテスト優勝者2名が、札幌国際日本語学院の招待で1カ月間日本語研修を受けるため来札。
- ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、ノボシビルスク市少年交流団13名が来札。
- ▶札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」にノボシビルスク市の大学生1名が参加。
- 8月 ▶「第7回札幌カップ国際アイスホッケー競

技大会」に参加するため、ポートランド市とノボシビルスク市の少年チームが来札。

- ▶シベリア・北海道文化センターで行われた日本語スピーチコンテストの優勝者2名が、札幌国際日本語学院の招待で日本語研修を受けるため来札。
- ▶「国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業」(種目:男子サッカー)にポートランド市、ミュンヘン市、瀋陽市、ノボシビルスク市から参加。
- 11月 ▶「第33回全道ロシア語弁論大会」開催。

2002年(平成14年)

- 2月 ▶「第4回姉妹都市フェスティバル」開催
- 5月 ▶北海道剣道連盟がノボシビルスク市の2名を含む剣士14名を受け入れ、親善試合などを行う。
- 7月 ▶ノボシビルスク市で行われた日本語スピーチコンテストの優勝者2名が、札幌国際日本語学院の招待で日本語研修を受けるため来札。
▶北海学園大学の学生ら7名が、研修、学术交流のためノボシビルスク市内の大学を訪問。
▶札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」に、ノボシビルスク市の2名が参加。
▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団13名がノボシビルスク市を訪問。
- 8月 ▶シベリア・北海道文化センターで行われた日本語スピーチコンテストの優勝者2名が札幌国際日本語学院の招待で、日本語研修を受けるため来札。
▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のマリーナ・ピリベンコさんが来札。
- 9月 ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第12回ロシア語詩のつどい」開催
- 10月 ▶札幌の2名を含む道内の剣士8名が、ノボシビルスク市で開かれた全ロシア剣道大会で審判を務める。
- 11月 ▶ノボシビルスク市を拠点に活動する「デュオ・ロマノフ・クガエフスキー」のグランプリコンサートが札幌市で開催。

2003年(平成15年)

- 2月 ▶「第5回姉妹都市フェスティバル」開催。
- 4月 ▶ロシア剣道連盟西シベリア支部長ら6名が来札し、札幌の剣友らと稽古。
- 6月 ▶北海学園大学で「日ロ国際シンポジウム」が開催され、シベリア国立交通大学学長ほか5名が参加。
 - ▶ノボシビルスク市の学生3名が北海学園大学にて学生交流に参加。
 - ▶ノボシビルスク市開基110周年記念行事に札幌市から福迫助役を団長とする訪問団7名及び北海道・ロシア文化協会の会員7名がノボシビルスク市を訪問。
 - ▶シベリア・北海道文化センターにおいて、本谷内氏による姉妹都市札幌写真展示会開催。



ノボシビルスク開基110周年記念事業

- 7月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市の少年少女訪問団13名が来札。
 - ▶札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」に、ノボシビルスク市から2名が参加。
- 8月 ▶シベリア・北海道文化センターで行われた日本語スピーチコンテストの優勝者2名と自費参加者2名が、札幌国際日本語学院の招待で日本語研修を受けるため来札。
 - ▶北海学園大学1名、大学院生2名がノボシビルスクの学生交流に参加。
- 9月 ▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)がノボシビルスク市で「ロシアにおける日本音楽指導と学術交流」を行い、講師3名を派遣。
 - ▶「国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業」で、札幌から男子サッカーチーム15名(ほか随行者4名)がノボシビルスク市を

訪問。

- ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第13回ロシア語詩のつどい」開催。
- ▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)が第6回箏教授派遣、第7回日本歌曲教授派遣を行い、ノボシビルスク音楽学院にてセミナー及びコンサートを開催。
- 10月 ▶北海道剣道連盟5名がノボシビルスク市を訪問。同月開催の「第6回ロシア剣道大会」に向けて選手強化を行う。
- 11月 ▶ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団が札幌で「コッペリア」を上演。

2004年(平成16年)

- 2月 ▶シベリア・北海道文化センター館長ら2名が来札。
 - ▶「第6回姉妹都市フェスティバル」開催。併せて絵画コンクールに優勝したノボシビルスク芸術学校生徒の絵画15枚を展示。
- 5月 ▶ノボシビルスク市ロシア剣道連盟シベリア支部より3名が来札し、稽古を通して市民と交流。
- 6月 ▶札幌・ノボシビルスク友好交流協会の文化交流団13名がノボシビルスク市を訪問し、日本文化セミナーを開催。
- 7月 ▶シベリア・北海道文化センターで行われた日本語スピーチコンテストで入賞した学生3名が札幌国際日本語学院の招待で、日本語研修を受けるため来札。
 - ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団13名がノボシビルスク市を訪問。
 - ▶ノボシビルスク市の学生3名が北海学園大学にて学生交流に参加。
- 8月 ▶「第8回札幌カップ国際アイスホッケー大会」出場のため、ノボシビルスク市のアイスホッケーチーム21名が来札。
 - ▶札幌地下街オーロラコーナーにて「姉妹都市パネル展」開催。
 - ▶札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」にポートランド市から1名、瀋陽市から4名、ノボシビルスク市から2名の学生が参加。
 - ▶シベリア・北海道文化センターで行われた夏期

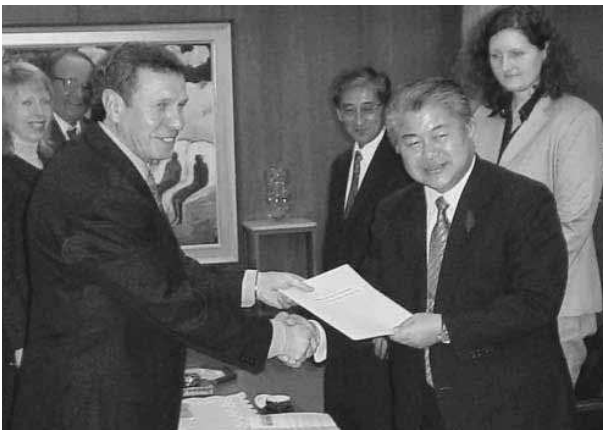
日本語集中講座に札幌市から教師2名が参加。

9月 ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第14回ロシア語詩のつどい」開催。

▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）が第7回箏教授派遣、第8回日本歌曲教授派遣を行い、グリーンカ音楽院にてセミナー及びコンサートを開催。

10月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）がノボシビルスク市で日本音楽の指導と学術交流のため講師2名を派遣。

▶ゴロデツキー・ノボシビルスク市長が来札し、上田札幌市長と市民間の交流促進について懇談。併せて世界冬の都市市長会への入会申請書が提出される。



世界冬の都市市長会入会申請書を受け取る札幌市長

11月 ▶ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団が「白鳥の湖」全4幕を札幌で公演。

12月 ▶北方音楽交流～MUSICA・織音第10回記念コンサートが開催され、瀋陽の琵琶奏者である劉剛氏、ノボシビルスクのドームラ奏者アンドレイ・クガエフスキー氏が出演。

2005年（平成17年）姉妹都市提携15周年

1月 ▶グリーンカ音楽院附属日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤ氏が「山田耕筰と日本近代音楽作曲家の作品」で音楽科学博士号を取得。

2月 ▶「第7回姉妹都市フェスティバル」及び「姉妹都市パネル展」を開催。

6月 ○姉妹都市提携15周年記念事業【札幌市→ノボシビルスク市】

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携15周

年記念事業に出席するため、市長団4名及び議員団14名（6/22～6/28）、市民訪問団34名（6/18～6/26）がノボシビルスク市を訪問。約80名の両市関係者が見守る中、姉妹都市関係促進宣言の調印式が行われたほか、札幌をノボシビルスク市民に広く紹介するイベント「サッポロウィーク」の開催や様々な記念事業に参加。



15周年記念式典で調印した宣言書を披露する両市長

▶「第8回ロシア剣道大会」がノボシビルスク市にて開催。

▶シベリア・北海道文化センターにおいて札幌国際日本語学院学長による学院紹介セミナーを開催。

▶北海道国際音楽協会（ハイメス）主催「日ロ国際コンサート&セミナー」に出席するため、グリーンカ音楽院附属日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤ氏が来札。

▶ノボシビルスク市の学生3名が北海学園大学にて学生交流に参加。

7月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市の少年少女訪問団13名が来札。

7月～8月 ▶ノボシビルスク市民4名が札幌国際日本語学院に短期留学。

8月 ▶札幌国際プラザ主催「北東アジア北米学生集中講座」にノボシビルスク市から2名の学生が参加。

▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のアンナ・サヴィヌイフさんが来札。

9月 ○姉妹都市提携15周年記念事業【ノボシビルスク市→札幌市】

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携15周年記念事業に出席するため、ノボシビル

スク市長団 5 名 (9/11 ~ 9/14) が来札。

記念式典・祝賀会や市役所 1 階ロビーでノボシビルスク市を紹介するパネル展を行ったほか、ゴロデツキー市長自ら講師を務めた「ノボシビルスク都市セミナー」開催。



都市セミナーで講演するノボシビルスク市長

なお、10 月にはノボシビルスク市民訪問団 27 名 (10/25 ~ 11/2) 及びノボシビルスク議員訪問団 5 名 (10/27 ~ 11/1) が来札。日本文化の体験や施設見学など様々な交流事業に参加。

▶ノボシビルスク市民 2 名が札幌国際日本語学院に留学。

▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第 15 回ロシア語詩のつどい」開催。

▶札幌・ノボシビルスク友好交流協会の文化交流団 13 名がノボシビルスク市を訪問し、日本文化セミナー及び琵琶コンサートを開催。

▶ノボシビルスク市ロシア剣道連盟シベリア支部より 1 名が来札し、稽古を通して市民と交流。

10 月 ▶北海学園大学主催「第 4 回日ロ国際シンポジウム」に出席するため、各大学の学長や学科長 7 名 (ノボシビルスク国立大学 2 名、シベリア国立交通大学 3 名、サハリン大学 2 名) が来札。

▶ノボシビルスク市ロシア剣道連盟シベリア支部長ら 3 名が来札。

▶北海学園大学 2 名が約 2 カ月間ノボシビルスク市の学生交流に参加。

2006 年 (平成 18 年)

1 月 ▶ノボシビルスク市で開催している「第 6 回シベリア雪像フェスティバル」に参加するため、

札幌市職員 3 名がノボシビルスク市を訪問。「獅子舞」をテーマに特別賞を受賞。

2 月 ▶「第 33 回国際雪像コンクール」に参加するため、ノボシビルスク市ツェントラリヌイ区長を含む 3 名が来札。「シベリアのプリンセス」をテーマに製作。



国際雪像コンクールに出場したノボシビルスクチーム

▶ノボシビルスク市中央文化会館教師 1 名が児童会館などの視察のため来札。

▶「第 8 回姉妹都市フェスティバル」開催。

5 月 ▶シベリア・北海道文化センター 10 周年を記念して、北海道・ロシア文化協会会長をはじめ 7 名の訪問団がノボシビルスク市を訪問。

6 月 ▶シベリア・北海道文化センターの日本語・文化コンサルタントとして札幌・ノボシビルスク友好交流協会会長がノボシビルスク市に長期滞在。

7 月 ▶札幌で開催された「札幌国際カップアイスホッケー大会」にノボシビルスク少年アイスホッケーチーム 22 名 (役員 5 名含む) が参加。札幌、カナダおよび韓国のチームと対戦。

▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団 13 名がノボシビルスク市を訪問。

▶ノボシビルスク剣道訪問団 6 名が来札。札幌の剣道団体と交流。

8 月 ▶シベリア・北海道文化センター主催「ノボシビルスク市民と学生を対象とした日本文学講座」の講師として、札幌・ノボシビルスク友好協会より 1 名がノボシビルスク市を訪問。

9 月 ▶ノボシビルスク剣道訪問団 2 名が、札幌と旭川を訪問。両市の剣道団体と交流。

▶グリーンカ音楽院の創立 50 周年記念行事週間に参加するため、北海道国際音楽交流

協会（ハイメス）の呼びかけによるロシア訪問友好男声合唱団 44 名がノボシビルスク市で演奏会を開催。

- 10月 ▶日本ユーラシア協会札幌支部の主催で、ノボシビルスク市からタチヤーナ・ヴァラシュツォーフ氏が来札し、札幌コンサートホール kitara にてコンサートを開催。
- 11月 ▶ノボシビルスク市の美術養成所指導講師関係者 3 名が来札。「ロシアを知るセミナー」を開催。
- ▶「MUSICA・織音 10th YEAR メモリアルコンサート」にノボシビルスク市と瀋陽市の音楽家が参加。

2007年(平成19年)

- 3月 ▶JICA 札幌及び札幌国際プラザ主催「国際協力文化祭」で、ノボシビルスク市からの留学生が札幌市について紹介。
- 4月 ▶シベリア・北海道文化センターのスピリドノフ館長が北海道・ロシア文化協会総会及び札幌姉妹都市協会総会に出席するために来札。札幌市長を表敬訪問。
- 7月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市の少年少女訪問団 13 名が来札。
- 8月 ▶シベリア・北海道文化センターで開催された「夏期日本語・文化集中講座」に、北海道日本語ネットワーク所属日本語教師 1 名を札幌から派遣。

2008年(平成20年)

- 2月 ▶ノボシビルスク市剣道団 8 名が剣道、居合道、杖道の稽古、講習会、昇段試験のために来札。
- 3月 ▶ノボシビルスク市校長会会長イリーナ・ミフノ氏を団長とするノボシビルスク教育関係者代表団計 8 名が来日。市内の小中学校を視察したほか、団長を講師として「ノボシビルスクを知るセミナー」を開催。
- 5月 ▶ノボシビルスク市で「西シベリア日本語弁論大会」開催。
- 6月 ▶国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業の一環として、「ノボシビルスク市創立 115 周年記念夏季国際子どもシベリア大会」に札幌の中学生からなる男子バレーボール選手団が参加。

7月 ▶シベリア・北海道文化センターの日本語教室に通うノボシビルスク日本語青年訪問団 13 名が来札。

▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団 13 名がノボシビルスク市を訪問。

8月 ▶シベリア・北海道文化センター主催「日本語講座夏期講習会」に北海道日本語教育ネットワーク会員の日本語講師 1 名を派遣。

▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のイリーナ・シュクリナさんが来札。

▶「第 10 回札幌カップ国際アイスホッケー競技大会」にノボシビルスク市からアイスホッケーチーム (21 名) が参加。

▶北海道国際音楽協会（ハイメス）の創立 20 周年記念コンサート出席のため、フォードロフ・ノボシビルスク市副市長をはじめとする訪問団 5 名が来札。

10月 ▶札幌マラソン大会にノボシビルスク市より 3 名からなるマラソンチームが参加。

2009年(平成21年)

4月 ▶ノボシビルスク国立大学とシベリア国立交通大学から各 3 名の学生が、3 カ月間、北海学園大学で学ぶために来札。

7月 ▶シベリア・北海道文化センターの日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団が来札。

▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市の少年少女訪問団 12 名が来札。

8月 ▶シベリア・北海道文化センター主催「夏期日本語・文化集中講座」に北海道日本語教育ネットワーク会員の日本語講師 1 名を派遣。

9月 ▶姉妹都市提携記念「第 19 回ロシア語詩のつどい」を開催。

2010年(平成22年) 姉妹都市提携 20周年

2月 ▶「さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール」にノボシビルスク市から 2 名が参加。

6月 ○姉妹都市提携 20 周年記念事業 [札幌市→ノボシビルスク市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携 20 周年記念事業に出席するため、市長団 5 名

及び議員団7名(6/22～6/29)、市民訪問団52名(6/22～6/28)のほか、よさこいソーランチーム20名がノボシビルスク市を訪問。姉妹都市関係促進宣言の調印式が行われたほか、創建記念日「まちの日」記念大コンサートや様々な記念事業に参加。



20周年記念式典で記念品を交換する両市長

▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)・グリーンカ音楽院共同コンサートがノボシビルスク市にて開催

7月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団12名がノボシビルスク市を訪問。

▶ノボシビルスク第22リセー小学校の親子10名が来日し、施設見学、ホームビジット、小学校との交流などを行う。

▶シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団が来札。

8月 ○姉妹都市提携20周年記念事業[ノボシビルスク市→札幌市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携20周年記念事業に出席するため、ノボシビルスク市長団5名(8/5～8/7)が来札。



表敬訪問で挨拶を交わす両市長

記念式典・祝賀会やノボシビルスク市を紹介するパネル展を大通ビッセで開催したほか、札幌商工会議所との懇談会などを実施。

▶札幌国際プラザと日本ユーラシア協会札幌支部との共催により「第20回ロシア語詩のつどい」開催。

▶札幌国際プラザと北海道国際音楽交流協会(ハイメス)との共催により「プーシキンの誌の朗読と音楽の夕べ」を開催。

11月 ▶ノボシビルスク州立人形劇場の団員4名が来札し、札幌市こどもの劇場やまびこ座で公演。

2011年(平成23年)

2月 ▶「さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール」にノボシビルスク市から3名が参加。

7月 ▶「姉妹都市少年交流事業」で、ノボシビルスク市の少年少女訪問団10名が、両市の姉妹都市である大田広域市の少年少女訪問団と共に来札。

8月 ▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のマキシム・サゾノフさんが来札。

10月 ▶2010年に姉妹都市となった大田広域市の提案により、双方の姉妹都市であるノボシビルスク市を加えた3都市の研究機関、大学関係者等を対象として「第1回科学都市シンポジウム」を大田広域市で開催。



第1回科学都市シンポジウムのようす

2012年(平成24年)

2月 ▶「さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール」にノボシビルスク市から3名が参加。

5月 ▶北海道・ロシア文化協会設立20周年記念祝賀会出席のため、ノボシビルスク市デルジャヴェツ文化部長とシベリア・北海道文化

センター・スピリドノフ館長が来札。札幌市長を表敬訪問。

- 7月 ▶ 「姉妹都市少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団10名が、両市の姉妹都市である大田広域市の少年少女と共にノボシビルスク市を訪問。
- ▶ シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団9名が来札。
- ▶ 札幌市役所1階ロビーにてノボシビルスク市の子供たちによる絵画展を開催。



ノボシビルスクの子供たちによる絵画展

- 10月 ▶ 札幌市、ノボシビルスク市および大田広域市の3都市の研究機関、大学関係者等を対象として、ノボシビルスク市で「第2回科学都市シンポジウム」を開催。

2013年(平成25年)

- 6月 ▶ ノボシビルスク市開基120周年記念行事に、生島副市長を団長とする札幌市訪問団4名がノボシビルスク市を訪問。
- ▶ 札幌武蔵野美術学院の主催により、ノボシビルスク市立美術センターにおいて「サッポロ未来展 in Russia」が開催され、北海道内の若手芸術家の作品が展示される。併せて、札幌武蔵野美術学院とノボシビルスク国立芸術専門学校との間で、短期留学等の学生交流や展示会開催等に関する「学校提携調印式」が行われる。
- ▶ 「国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業」の一環として、ノボシビルスク市にて開催された「スポーツ・芸術・知性国際子ども大会」の柔道種目に札幌市内在住の中



柔道選手団と札幌市訪問団

- 7月 ▶ 「姉妹都市少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団10名とノボシビルスク市の少年少女訪問団が、両市の姉妹都市である大田広域市を訪問。
- ▶ シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団7名が来札。
- 10月 ▶ 「第38回札幌マラソン大会」にノボシビルスク市からのマラソンチーム4名が参加。
- 11月 ▶ 札幌市、ノボシビルスク市および大田広域市の3都市の研究機関、大学関係者等を対象として、札幌市で「第3回科学都市シンポジウム」を開催。

2014年(平成26年)

- 4月 ▶ ゴロデツキー前市長の辞職に伴う市長選の結果、アナトーリー・ローコチ氏が市長に当選し、同月就任。
- 7月 ▶ シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団7名が来札。
- 8月 ▶ 「姉妹都市少年交流事業」で、ノボシビルスク市の少年少女訪問団10名が、両市の姉妹都市である大田広域市の少年少女訪問団と共に来札。
- ▶ 札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のマリナ・ラケーワさんが来札。
- 12月 ▶ ノボシビルスク国立経済・経営大学の教員1名と学生10名が、札幌圏の大学(札幌大学、北海学園大学、小樽商科大学)との交流を目的として来札。

2015年(平成27年) 姉妹都市提携25周年

6月 ○姉妹都市提携25周年記念事業[札幌市 →ノボシビルスク市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携25周年記念事業に出席するため、市民訪問団22名(うち、市職員2名)がノボシビルスク市を訪問(6/23～6/30)。「姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言」の調印式のほか、創建記念日「まちの日」記念式典や様々な記念事業に参加。

7月 ▶「姉妹都市少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団8名が、両市の姉妹都市である大田広域市の少年少女と共にノボシビルスク市を訪問。



姉妹都市少年交流事業に参加した3都市の少年少女

▶シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団7名が来札。

9月 ▶日本ユーラシア協会札幌支部の主催により、姉妹都市提携25周年記念「第25回ロシア語詩のつどい」を在札幌ロシア連邦総領事館において開催。

10月 ▶姉妹都市提携25周年を記念したグリーンカ音楽院主催「日露音楽コンサート」に、ソプラノ歌手松井亜樹さんとピアニストの高橋健一郎さんが招待され、ノボシビルスク市を訪問。

○姉妹都市提携25周年記念事業[ノボシビルスク市→札幌市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携25周年記念事業に出席するため、ローコチ・ノボシビルスク市長を団長とするノボシビルスク市訪問団5名が来札。(10/13～10/17)

15日に札幌全日空ホテルにて、記念式典と記念祝賀会を開催。

12月 ▶北海道国際バレエ・ダンスカンパニーの主催により、姉妹都市提携25周年記念公演「くるみ割り人形」を教育文化会館で開催。

～シベリア抑留者の心を癒したピアノ～

ノボシビルスクで、かつて日本人収容所にあったと思われるピアノが2007年頃に見つかりました。詳しい経緯は不明ですが、ノボシビルスク州の隣、ケメロボ州の日本人捕虜収容所で働いていた人が亡くなる時に「日本人に返してほしい」と孫に言い残したことから、その孫からの申し出で、1997年にノボシビルスクにあるシベリア・北海道文化センターに持ち込まれ保管されていたものです。

このピアノの製造ナンバーによると、日本楽器製造(現ヤマハ)製で1935年から1936年に日本国内で製造されたものでした。

「日ロ友好の一助に」とヤマハが協力し、修理され、同センターが主催する式典でその音色を響かせました。

札幌・ノボシビルスク市民交流の担い手

公益社団法人 札幌国際プラザ

～市民とともに歩む国際交流～

札幌市とノボシビルスク市が姉妹都市提携の盟約を結んだ翌年の1991年(平成3年)7月に財団法人化された札幌国際プラザは、文化・音楽・スポーツ等さまざまな分野においてノボシビルスク市との交流事業を支援してきました。さらに2000年(平成12年)6月29日にはノボシビルスク市にあるシベリア・北海道文化センターと姉妹団体提携を調印しました。

当財団では、市民の国際交流や多文化共生を推進するための事業を展開するとともに、地域の国際交流関係団体とも連携し、活動の振興に努めています。

市民ボランティアも積極的に国際交流活動に参加しており、様々な事業において当財団と協働して国際交流推進の力強い支えとなっています。さらに、国際相互理解の増進や人材育成のため、各国を知るセミナーや文化体験イベント、語学プログラムなど市民が楽しみながら学べる事業を展開しています。

【外国語ボランティア】

1972年冬季オリンピック開催をきっかけとして、国際化の波が押し寄せるなか「あなたの語学力を国際親善に役立ててください」をキャッチフレーズに1977年「外国語ボランティア制度」が発足し、2015年9月1日現在では507名が登録しています。2015年7月にノボシビルスク市から日本語青年訪問団が来札した際には、小樽観光やイベント「レッツトークロシア語スペシャル」においてロシア語ボランティアの方々が活躍しました。



レッツトークロシア語スペシャルの様子

【ホームステイボランティア】

1968年7月に、国際親善、国際理解、オリンピックのための下地づくりを目的として「札幌市民泊受入家庭登録制度」が発足したのが始まりであり、1991年札幌国際プラザが財団法人化されたことに伴い、ホームステイ制度が確立されました。現在では約130家庭がボランティア家庭として登録しています。2015年7月にノボシビルスク市から日本語青年訪問団が来札した際には、ホームステイを体験し、日本の食事や観光を共に楽しみました。

【日本文化体験ボランティア】

1992年に発足した「札幌天神山国際ハウスボランティア会」が、2008年3月の札幌天神山国際ハウスの閉館に伴い、札幌国際プラザ多文化交流部に所属を移行して現在の名称となりました。海外のお客様へ日本文化を紹介するため、茶道、着付け、折り紙、華道、書道の各分野で市民ボランティアが活動しています。2015年7月にノボシビルスク市から日本語青年訪問団が来札した際には、茶道、着付けなどを実施しました。

【レッツトークプログラム】

札幌国際プラザの交流サロンを利用し、英、日、中、韓、露、独の各国語によるフリートークを通して、市民が外国語による気軽な交流ができるよう「レッツトークプログラム」を実施しています。参加無料、申込不要で、国際交流員のほか、札幌市在住の外国人も多く参加しています。集まった方たちは毎回様々なテーマでフリートークを楽しんでいます。2015年7月にノボシビルスク市から日本語青年訪問団が来札した際には「レッツトークロシア語スペシャル」を開催しました。

【各国を知るセミナー】

札幌市民に世界の国々の文化等について広く紹介し、相互理解を深める目的で様々な国を紹介するセミナーを実施しています。特に、姉妹都市のある国や地域を重視しており「ロシアを知るセミナー」は例年ノボシビルスク市からの国際交流員が行っています。現在の国際交流員マリナ・ラケーワさんも、2015年12月に「“しばれる”ロシア」をテーマにセミナーを行い、参加した市民は熱心に耳をかたむけていました。



ロシアを知るセミナー

シベリア・北海道文化センター



Центр "СИБИРЬ-ХОККАЙДО"
「シベリア・北海道」文化センター

ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センターは、札幌とノボシビルスクの協力のもと、相互の文化理解を進めることを目的に建設されました。建設にあたっては、北海道・ロシア文化協会が大きな役割を果たしました。1996年(平成8年)のオープンから、ノボシビルスク市民の勉強、交流、日本文化との触れ合い場所として一年中使われています。日本語能力試験、日本語教育シンポジウム、日本語弁論大会など、日本に関する様々な行事の他、空手や居合道、杖道などの教室も行われています。また、姉妹都市札幌博物館、日本に関する書籍やビデオが揃っている図書室もあります。年中行事の折り紙フェスティバルでは、札幌国際プラザの日本文化体験ボランティアの方に折り紙の折り方ビデオを送っていただき、参加者に大変喜ばれました。センター前の公園には、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携10周年を記念した並木と記念石があり、市民に親しまれる場として様々な行事が開催されています。

このセンターは、ノボシビルスクの人々に日本を紹介する、また日本人にロシア・ノボシビルスクをPRする施設としてノボシビルスク市が誇る施設です。日本語が堪能な職員が常駐しているので、ロシア語ができない日本の方々でも安心して訪れることができます。2000年(平成12年)には財団法人札幌国際プラザの提携団体となりました。また、長年の交流の功績が認められ、在ロシア日本国大使から表彰されたこともあります。

センターは朝早くから夜遅くまで活気があり、市民の明るい笑顔でいっぱいです。日本人観光客のみなさんも、ぜひ気軽にいらしてください!



「シベリア・北海道文化センター」の1年

| | |
|-------|---|
| 2月 | 日本文化体験プログラム |
| 3月 | 「雛まつり」日本文化祭・人形コンクール、学生会議、日本研究及び日本語教育学会 |
| 4月 | 「姉妹都市の日」(講演会など) |
| 5月 | 子ども剣道カップ、シベリア囲碁大会、こどもの日 シベリア地域日本語弁論大会、子ども日本語弁論大会 |
| 6月 | 「まちの日」日本文化祭 |
| 7月～8月 | 札幌市からの少年交流団派遣および受入 |
| 9月 | 「知識の日」日本文化紹介プログラム、日本語学習者オリエンテーション |
| 10月 | ロシア剣道大会 |
| 11月 | 「どうぞよろしく」交流会、青少年空手大会 |
| 12月 | 日本語能力試験、ヨールカ祭 |



札幌姉妹都市協会

Sapporo Sister City Association

札幌市の姉妹都市交流は、1959年（昭和34年）にアメリカ・ポートランド市と姉妹都市提携を結んだのを皮切りに1972年（昭和47年）にドイツ・ミュンヘン市、1980年（昭和55年）に中国・瀋陽市、1990年（平成2年）にロシアのノボシビルスク市、そして2010年（平成22年）に韓国の大田（テジョン）広域市と提携し、交流の輪を徐々に拡大してきております。

ポートランド市、ミュンヘン市との交流は、それぞれの「姉妹都市提携委員会」が中心となって進められていましたが、札幌と姉妹都市間の交流事業の発展・拡大に伴い、複合的に姉妹都市の交流に関する情報提供を望む声が強くなりました。

こうした背景のもと、1986年（昭和61年）4月23日、「札幌姉妹都市協会」が設立され、1997年（平成9年）には、事務局が札幌市国際部から財団法人札幌国際プラザに移管されました。

同協会は以来、札幌、ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスク、大田との間で、教育、科学、芸術、体育、経済、技術等の分野で総合的な交流を図るための事業を推進し、姉妹都市間相互の友好親善に寄与するとともに、市民の異文化理解の推進等を目的として様々な活動をしています。

ノボシビルスクとの交流については、次のような事業などを行っています。

【ロシア語詩のつどい】

1991年（平成3年）から、姉妹都市提携記念事業のひとつとして、日本ユーラシア協会札幌支部との共催で実施しています。姉妹都市提携25周年にあたる2015年（平成27年）には「第25回ロシア語詩のつどい」が在札幌ロシア連邦総領事館において開催されました。ロシア語による詩の朗読や懇親会を通じて、札幌市民のロシア文化への理解を深める事業として継続しています。



ロシア語詩のつどい（平成27年）

【ロシア語弁論大会】

ロシア語学習の普及を通じてロシアの文化・社会の理解を促進するために、日本ユーラシア協会北海道連合会、サハリン州政府、北海道の主権により1969年から開催しています。札幌国際プラザ・札幌姉妹都市協会はこの事業を後援しており、大会の特別賞として『札幌姉妹都市協会賞』を出賞しています。

【姉妹都市パネル展】

より多くの市民の方に姉妹都市について紹介するため、毎年1回、5つの姉妹都市の観光名所や街の様子を紹介する写真パネルやポスターなどを展示しています。



姉妹都市パネル展



『似たもの同士の相違点』

札幌市国際交流員
マリナ・ラケーワ

「札幌はオリンピックをきっかけにしてミュンヘンと姉妹都市になりましたが、ノボシビルスクと姉妹都市になったきっかけはなんですか」と聞かれた時、決定的な一つのきっかけはあったのだろうか、答えに詰まりました。実は、両市の市民交流は1974年から始まり、まるですでに姉妹都市になっているかのように盛んに交流が行われていました。そして、ノボシビルスクはオリンピックを開催したことはまだありませんが、気候、規模、歴史など似た特徴があり、それぞれの地域の文化・科学などの中心都市であるという点で札幌との共通点はたくさんあり、結果的に姉妹都市提携を結びました。しかし、今回は皆さんがご存じの共通点ではなく、お互いの知らないところについて紹介したいと思います。

例えば、気候に関してお互いに驚くことがあります。両市は雪が多く、寒い冬があります。しかし、その冬のイメージは、ノボシビルスク市民と札幌市民では結構違います。私は2007年10月に初めて札幌に来て、一年間留学をしました。その時まちの中心からあいの里まで通学して、「ノボシビルスクより、雪がずっと多いな」と思いながら、札幌の大雪をよく感じました。でも、日本人の友だちに「札幌は本当に雪が多いですね」と言うと、「いえ、今年は少ないですよ」と言われました。ノボシビルスクの市民は札幌のような大雪は多分想像できない、と思いました。今は、ノボシビルスクの人から「札幌はノボシビルスクと同じで雪が多い」と聞くと、本当に「雪が多い」というのはどういうことか、札幌に来て実感して欲しいなと思います。

一方、札幌の市民は「本当に寒い冬」ということをよく分かっていないようです。交流員の業務として、小・中・高校に派遣されて、ロシア・ノボシビルスクについて紹介しています。「札幌とノボシビルスクと、どちらが寒いと思いますか」と聞いたら、多くの小学生は「札幌!」と答えます。でも、気温が毎年マイナス30度以下まで下がるノボシビルスク出身の私には、札幌の冬は冬らしくありません。とても暖かいです!シベリアの人は冬の気温について話すとき、わざと「マイナス」と言いません。冬なら、マイナスは当たり前だからです。そして、天気予報でも「明日は氷点下15度まで暖かくなるでしょう」のような日本人にありえない表現も出てきます。勇気のある方、ぜひノボシビルスクの真冬も体験してみてください!

両市には、おもしろいところがたくさんあります。姉妹都市提携を結んで、四半世紀にわたってお互いについて分かったことを忘れずに、次の四半世紀にもお互いの特徴をもっと勉強し、よく知っていくことが、国際交流における私の第一希望です。

【プロフィール】

ロシア・ノボシビルスク生まれ

| | |
|------------------|------------------------------------|
| 2003年 | ノボシビルスク国立教育大学歴史学部世界文化学・日本語教育学科入学 |
| 2007年10月～2008年9月 | 北海道教育大学札幌校に交換留学 |
| 2009年 | ノボシビルスク国立教育大学歴史学部世界文化学・日本語教育学科卒業 |
| 2009年9月～2014年7月 | 日本語教師として、ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター勤務 |
| 2014年8月～ | 札幌市国際交流員として、公益財団法人 札幌国際プラザ勤務 |

札幌市の歴代国際交流員（ロシア担当）からメッセージ

札幌市で活躍しているロシア担当の国際交流員は、札幌とノボシビルスクの結びつきの強さを示すように、これまで全員がノボシビルスク市出身の方々です。

姉妹都市提携 25 周年にあたり、歴代の国際交流員の皆さんから、お祝いのメッセージをいただきましたのでご紹介します。

❖ マリーナ・カリュジノワさん (1995 年 9 月～1998 年 8 月)

現在：ノボシビルスク国立教育大学准教授

『国際交流にずっと携わっていきたい』

帰国してからずっとノボシビルスク国立教育大学で日本語を教えています。北海道教育大学の札幌校との大学間交流、留学生の派遣・受入れも担当しているので、札幌市民との交流を続けられる仕事を非常に嬉しく思っています。2004 年に北海道教育大学の修士課程を修了し、修士学位を取得しました。その後、東京や名古屋、仙台などの日本語教育国際研究会や東北大学主催セミナーでの発表を行ったり、日本の研究雑誌で論文を掲載したりして、研究を続けています。

そして、国際交流にずっと携わっていききたい気持ちが強くて、教師の仕事をする傍ら通訳・翻訳の仕事の依頼も受けるようにしています。日本厚生労働省の訪問団や欧州復興開発銀行の訪問団、東北大学とロシア科学アカデミーなどのプロジェクト、第 5 回と第 11 回の日本・ロシアフォーラムの公式通訳をし、昨年、ロシアのソチで開催された第 XXII オリンピック大会の NHK ユニ、スーパーハイビジョン現地スタッフとしてリサーチャー、番組コーディネーター、公式通訳などを勤めさせていただいて、光栄に思っています。

そのような仕事のなかで、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携 10 周年、15 周年、20 周年記念事業で両市の市長一行と市議会一行の公式通訳をしていたので、再び札幌を訪れる貴重なチャンスに恵まれて、とても懐かしかったです。これからも姉妹都市間交流の成長ぶりを楽しみにして、そのために全力を尽くしていきたいと思っています。



❖ タイシャ・チーニナさん (1998 年 7 月～1999 年 7 月)

(イギリス在住)

❖ イリーナ・プーリクさん (1999 年 7 月～2002 年 7 月)

現在：ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター副館長

1980 年代、私が中学生の時、21 世紀をどこでどのように迎えるか、よく考えることがありました。そのとき、それを日本の姉妹都市・札幌で迎えるとは、想像もできませんでした。日本は資本主義の世界、越えられない壁の向こうの国でしたが、世界情勢の変化につれて、ロシアと日本の交流が盛んになり、1990 年にノボシビルスクと札幌は姉妹都市交流を始めました。25 年の間、姉妹都市交流の事業は、良



い意味で日常的なものになりました。そのような活発な交流の実現のため、両市の友好団体、ボランティア、若者、アーティスト、音楽家、武道家の皆様に素晴らしい貢献をしていただきました。また、ノボシビルスクからの国際交流員は立場が変わっても、姉妹都市交流をサポートしつづけ、大切にしています。自分もそうだから、幸せだと思います。

心の中にある「姉妹都市交流のシンボル」は「涙」だと思います。札幌の皆さんはノボシビルスクを訪れ、空港でお別れするときによく涙を流します。ロシア人も同じように札幌から帰るときに、よく泣きます。その涙とは、親しくなった友だちとのお別れが寂しいからですが、本当の幸せの表情だと思います。

❖マリーナ・ピリペンコさん (2002年8月～2005年8月)

現在：ユニクロ・ロシア CS担当者 (モスクワ在住)

3年間大変お世話になりました札幌に対して、いつまでも心から感謝しています。札幌国際プラザ、市役所、上田市長、市民の皆さん、とても優しく、色々と教えて頂き、応援して頂き、お陰様で、一生忘れられない思い出と貴重な経験ができました。国際交流員も家族のように感じて、一緒に頑張っ、一緒に楽しんで、一緒に札幌のことを好きになりました。

札幌は、世界で一番市民と観光者にやさしい、楽しい街だと思います。仕事だけではなく、趣味も、池坊の生け花レッスン (大好きな井上先生)、市役所のバスケットのチーム、ロシア語の Let's Talk のグループ、学校訪問の時に知り合った先生たちと生徒たち、皆のことを覚えているし、感謝しています。一期一会の出会いでした。



❖アンナ・サヴィヌイフさん (2005年8月～2008年7月)

現在：北海学園大学ロシア語教師

(2015年10月の25周年記念式典・祝賀会でロシア語の司会を担当)

姉妹提携 25 周年、おめでとうございます！

国際交流員の仕事を終えて、家族の都合で札幌に残ることになりました。現在は通訳・翻訳もしながらロシア語教師と2児の母として忙しく、そして楽しく毎日を送っています。

札幌は規模的、気象的、雰囲気的にノボシビルスクにとっても似ているため、もう10年となった札幌生活にすぐ慣れました。

札幌の皆様にロシアやノボシビルスクをもっと身近に感じていただくため、ロシア語やロシア文化を教えることに努めています。ロシアの魅力を感じていただき、実際にロシアを訪れて、さらにロシアを好きになっていただきたいと思います！

札幌とノボシビルスクはさらに仲良くなるように私も頑張っていきます！



❖イリーナ・シュクリナさん (2008年8月～2011年8月)

現在：ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター職員

大学に入学し日本語を勉強し始めたとき、是非将来日本や日本語に関わる仕事をしたいという夢を持っていました。そして2年生の学年末に札幌国際プラザの大学生交流プログラムに参加できて、札幌に行くことができました。しかし、あの時もまさか5年後に札幌へ行って、国際交流員として仕事ができることになるとは想像もできませんでした。大好きな札幌で仕事をして、札幌の市民に「近くて遠いロシア」を少しでも近く、親しく感じられるように仕事をするのはとても大切な経験になり、温かい思い出がたくさんあります。

現在ふるさとのノボシビルスクに帰っても、シベリア・北海道文化センターで働き、ノボシビルスクの市民に日本の文化や姉妹都市札幌について説明しています。今もまだ、国際交流員の仕事が続いていると思います。これからもたくさんの札幌市民が姉妹都市ノボシビルスクを訪問できることを期待しております。皆さん、ぜひノボシビルスクにお越しください！



❖マキシム・サゾフさん (2011年8月～2014年7月)

現在：ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター日本語教師
(2015年10月にノボシビルスク市訪問団の一員として1年ぶりに来札)

札幌の皆さま、こんにちは！

札幌とノボシビルスク姉妹都市提携25周年記念おめでとうございます！

25年間にわたり札幌とノボシビルスクとの関係は密接になり、両市の市民の方々もお互いのことをよくわかるようになり、両市はお互いに地理的に遠いのに、近く感じるようになってきたのではないかと思います。ノボシビルスクと札幌はとても似ている街だと思います。両市とも若い街ですが、急速に発展して、両国でも有数の大規模な都市になりました。そして両市に住んでいる人たちもとても似ていて、これからもお互いに協力をしながら両市の発展のために頑張りたいと思います。両市の一般市民の間の密接な関係は両国の市民の良い手本となり、心と心を結ぶ関係は国と国を結ぶ関係になるようにお祈りします。

札幌での3年間の生活を終えて、ノボシビルスクに帰りました。今は日本語教師として、自分の生徒に大好きな札幌はどんな街であるかと教えようとしています。生徒たちも日本語ができるようになり、自分で札幌に行ってみて、札幌のことが好きになってほしいからです。

結びに改めて姉妹都市提携25周年記念おめでとうございます。これからも両市の関係、一般市民の関係を発展させるために一緒に頑張りましょう。



広がる交流活動

◆◆◆ 音楽交流 ◆◆◆

音楽の分野では、ノボシビルスク国立グリンカ音楽院と北海道国際音楽交流協会（ハイメス）との交流が、大きな役割を果たしている。バイオリニストのアントン・バラホフスキーやソプラノ歌手エテリ・グワザワをはじめ数々の音楽家を札幌に紹介する一方、ハイメス所属の音楽家もノボシビルスクで公演を行っている。1992年（平成4年）には、グリンカ音楽院に「日本音楽・文化科」が設置され、藤田道子（声楽）、故高垣幸子（箏）らが名誉教授、佐藤のり子（箏）、雨貝尚子、野田廣志（声楽）らが客員教授を拝命し、定期的にマスタークラスの指導に当たっている。さらに1992年、音楽院付属「日本音楽文化センター」が開設。ハイメスとこのセンターは1995年（平成7年）に提携を結び、活発な交流を続けている。2000年（平成12年）、ハイメスの支援で長期日本留学をした日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤは、2005年（平成17年）に「山田耕筰と日本近代音楽作曲家の作品」で音楽科学博士号を取得。2003年（平成15年）、シベリア・北海道文化センターでも、音楽院の教師が教える箏教室が開催された。2005年（平成17年）10月から北海道教育大学札幌校に1年間留学していたノボシビルスク国立教育大学生アリーサ・トルマチョワが故高垣幸子の指導を受けている。2010年（平成22年）6月には、姉妹都市提携20周年を記念し、ノボシビルスクでグリンカ音楽院とハイメスの共同コンサートが開催された。同年8月には、音楽院副学長タチアナ・ソロキナが、札幌で開催された札幌国際プラザ・ハイメス共催のコンサートで詩の朗読を行った。

また、パシフィック・ミュージック・フェスティバルに、シベリアの若き音楽家たちも参加。

その他、ノボシビルスク出身の指揮者故アーノルド・カツが、1991年（平成3年）と1994年（平成6年）の2回札幌に招かれ、札幌交響団を指揮、1997年（平成9年）には自身が首席指揮者を長く

勤めるノボシビルスク・フィルハーモニー管弦楽団とともに来札し、札幌コンサートホール Kitara で公演を行い、札幌の音楽ファンを魅了した。

2015年（平成27年）には、姉妹都市提携25周年を記念して、ハイメス所属のソプラノ歌手松井亜樹（札幌大谷短大保育科講師）とピアニストの高橋健一郎（札幌大学ロシア語専攻教授）がグリンカ音楽院主催「日露音楽コンサート」に招待され、日本語とロシア語で歌を披露した。



音楽院大ホールにて（公式 HP www.nsglinka.ru より）

◆◆◆ バレエ交流 ◆◆◆

北海道インターナショナル・ダンスシアター主宰小沢輝佐子舞踊団は、両市の提携前から独自にノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団と交流提携を結び、合同公演を開催し、両市のバレエ交流の基礎を築いた。

そのほか、久富淑子バレエ研究所から、現在まで12名の留学生が、全ロシアでも有名なノボシビルスク国立舞踊専門学校で学んだ。

大杉洋子バレエアカデミーは、1998年（平成10年）からノボシビルスク舞踊学校と交流を行っている。2000年（平成12年）7月に札幌市、2001年（平成13年）2月にはノボシビルスク市で、大杉洋子のオリジナル振付けに基づき、プロダンサーや舞踊学校の生徒が出演した合同公演「夕づる」が上演されたほか、2003年（平成15年）からはノボ

シビルスク国立舞踊専門学校卒業生であるアナトリー・スタヴロフが、同アカデミーの教師を勤めている。

ノボシビルスク市が誇るノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団も、これまで何度も札幌での公演を行っている。2015年（平成27年）には姉妹都市提携25周年を記念し、ロシア出身のダンサーによる「くるみ割り人形」が札幌で公演された。



❖❖❖ 演劇交流 ❖❖❖

ノボシビルスクを代表する国立劇場「クラスヌイ・ファケル」と札幌演劇鑑賞協会は、1991年（平成3年）「相互招待に関する覚書」を結び、お互いの演劇事情を学びあっている。

提携5周年を記念して、原子修氏を監督とする詩劇「ピンネシリ」ロシア公演一行がノボシビルスクを訪れ、市民同士の文化交流を行った。一方、ノボシビルスクからは「人形劇場」が札幌で公演している。

2000年（平成12年）には姉妹都市提携10周年を記念し、国立劇場「スターレイ・ドム」一行が来札、怪談「牡丹燈籠」公演を行い、ロシアの劇団が日本の物語を演じるとのことで話題を呼んだ。

2010年（平成22年）には、ノボシビルスク州立人形劇場の一行が再び札幌を訪れ、公演を行っている。

❖❖❖ 美術交流 ❖❖❖

2013年（平成25年）には、ノボシビルスク創立120周年として武蔵野美術学院の教員と学生による「サッポロ未来展」をノボシビルスク市立美術セ

ンターにて開催した。

切り絵作家の畑中玉子は、2012年（平成24年）に札幌・ノボシビルスク友好交流協会の会員としてノボシビルスクを訪れ、3か月の滞在でワークショップや講演を行った。そこで切り絵を学んだロシア芸術家連盟のヴィクトリア・バトゥーリナとともに、2015年（平成27年）の姉妹都市提携25周年では、ノボシビルスク市立美術センターにて切り絵の共同展示会を開催した。



❖❖❖ スポーツ交流 ❖❖❖

中学生を対象とした「国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業」は1985年（昭和60年）から、姉妹都市提携記念年に対象都市で開催し、他の3都市が参加するという形態で始まり、ノボシビルスク市は新たに姉妹都市となった1990年（平成2年）に瀋陽市で開催された大会（男子柔道）に初めて参加した。

その後、1992年（平成4年）の男子バレーボール（ミュンヘン市）に出場。1994年（平成6年）からは、姉妹都市提携記念年に札幌市と対象都市間での交流を行うこととし、1996年（平成8年）から5年ごとに札幌で5都市間交流を行う方式に改められた。なお、ノボシビルスク市は瀋陽市と周年事業が重なることから、2年繰り上げた1998年（平成10年）から5年ごとに行うこととなっている。

最近の交流は、2013年（平成25年）6月、札幌から柔道選手団10名を派遣し、同市で行われた「スポーツ・文化・知性 国際子ども大会」の柔道種目に出場した。

また、この年の10月に開催された「札幌マラソン大会」には、ノボシビルスク市から監督1名と選

手3名が参加し、男子10kmの部で優勝するなど好成績を残している。



◆◆◆ 剣道交流 ◆◆◆

ノボシビルスクでは、剣道や空手など武道が盛んである。特に剣道では、1996年に創立されたロシア剣道連盟シベリア支部が、ノボシビルスクを中心にシベリア地方全域で活動をしている。全ロシア剣道大会でノボシビルスク市民としては、個人で2002年と2005年、チームでは1999年、2000年、2002年に優勝している。全ロシア剣道大会は2003年(第5回)、2005年(第8回)、ノボシビルスクで開催された。2000年から定期的に北海道剣道連盟が指導を行っており、2001年、2002年、2003年、2005年、2007年には、ノボシビルスクにて講習会を開催。1999年からはシベリア・北海道文化センターにて剣道の子供グループが活動開始。2002年に開催された北海道剣道連盟創立50周年記念剣道祭以来毎年、ノボシビルスクから剣道、居合道、杖道の講習会を受けるために来札している。

◆◆◆ 少年交流 ◆◆◆

1990年(平成2年)提携時にインディノク・ノボシビルスク市長が、未来を担う若者たちの交流をぜひ行いたいと表明し、「覚書」の中に少年交流の実施が盛り込まれ、翌年の平成3年から「ノボシビルスク少年交流事業」としてスタート。各種交流を通じて相互交流と友好親善を深め、ホームステイや異文化体験プログラム等を通して、他国の生

活習慣や文化に触れることにより、国際的視野の広い青少年の育成を図ることを目的に中学生・高校生の派遣・受入を実施している。

2011年度からは、その前年に札幌市と姉妹都市となった韓国・大田広域市がノボシビルスク市とも姉妹都市提携を結んでいたことから、3都市による交流事業へと発展し、以来、3都市での持ち回りにより実施している。

直近では、2015年7月、札幌市訪問団11名(中学生8名、引率3名)と大田広域市の少年少女がノボシビルスク市を訪問し、ホームステイなどを通して交流を行った。



姉妹都市少年交流事業 派遣・受入状況
(大田広域市が加わった2011年度以降の実績)

| 年度 | 開催地 | 少年少女 | 引率 | 計 |
|-------|---------|------|----|----|
| 2011年 | 札幌 | 20 | 9 | 29 |
| 2012年 | ノボシビルスク | 10 | 3 | 13 |
| 2013年 | 大田 | 10 | 3 | 13 |
| 2014年 | 札幌 | 20 | 6 | 26 |
| 2015年 | ノボシビルスク | 8 | 3 | 11 |

※開催地が札幌の年度は両市からの受入人数
開催地が他市の年度は札幌からの派遣人数

また、2010年(平成22年)の姉妹都市提携20周年の際に札幌の市民訪問団がノボシビルスク市第22番リセー小学校に訪問したことをきっかけとし、札幌市立山鼻南小学校との交流が始まった。同年7月にはノボシビルスク市立の小学生が札幌を訪れ、2度山鼻南小学校を訪問している。その

後2年間に渡り、ノボシビルスク日本語青年訪問団が来札する折に合わせて、メッセージカードや写真の交換を行った。その後も日本語青年訪問団が札幌に滞在する際には、山鼻南小学校での交流プログラムを行っている。

❖❖❖ 学術交流 ❖❖❖

ノボシビルスク市の郊外に開発された学術地区「アカデムゴロドク」はロシア科学アカデミー・シベリア支部が置かれており、姉妹都市関係を契機として、大学・学術機関同士の協力関係も始まった。

この間、札幌大学考古学研究室とロシア科学アカデミー・シベリア支部「考古学・民族学研究所」、北海道大学大学院経済学研究科とロシア科学アカデミー・シベリア支部「経済・工業生産組織研究所」、北海道大学大学院理学研究科とロシア科学アカデミー・シベリア支部「地質学・地球物理学研究所・鉱物学連合研究所」及びノボシビルスク国立大学の間で、派遣、受入、共同研究などが行われている。北海道教育大学札幌校とノボシビルスク国立教育大学、北海学園大学とノボシビルスク国立大学及びシベリア国立交通大学は派遣、受入以外に学生交流も行っている。北海学園大学では2002年から「日ロ国際シンポジウム」を開催。

その他、札幌国際日本語学院では、ノボシビルスクから留学生の受入(2000年～2004年毎年2名無料)を行っており、これからも日本語学習者が多いノボシビルスクからの日本語・日本文化留学が期待される。

2013年(平成25年)には、北海道大学「持続可能な低酸素社会づくり」プロジェクトの主催で、ノボシビルスクと大田から研究者や実務者を招き、環境問題に関する「三姉妹都市科学シンポジウム」が開催された。

2014年(平成26年)に、ノボシビルスク国立経済・経営大学の教員と学生の11名が、日本の大学との交流、視察を目的として札幌を訪れた。滞在中は、札幌大学、北海学園大学、小樽商科大学を訪れ、ロシア語を学ぶ学生や経済を学ぶ学生たちと交流した。



❖❖❖ 経済交流 ❖❖❖

両市間経済交流の推進は、まず、お互いの異なる経済事情を理解しあうことが重要との認識からスタートした。

2003年(平成15年)4月にはアカデムゴロドクのIT会社社長ら2名が研修及び会社の紹介を目的に来札。

同年6月、シベリア建築会社は北海道ロシア文化協会長の根本氏と、建築、輸入、輸出に関する商談を行うなど徐々にではあるが、交流が続いている。今後も経済交流を促進していくことが課題となっている。

❖❖ 国際雪像コンクール ❖❖

さっぽろ雪まつり期間中に行われており、1チーム3名編成で美しさを競う。ノボシビルスクチームは、1991年(平成3年)の第18回大会から参加しており、翌年の第19回大会では、参加2回目にしてBグループ優勝を飾った。

その後、平成5、8、9、10、12、13、18、22、23年の大会に参加。

本市の他の姉妹都市を始め、世界各国の参加者や札幌市民との友好を深めている。

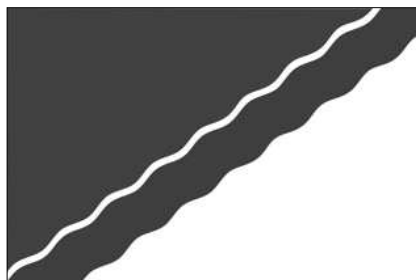
ノボシビルスクの概要

ノボシビルスク——ロシア連邦西シベリア中部のノボシビルスク州の州都であり、シベリア連邦管区の中心都市。西シベリア低地南部のオビ川兩岸にまたがる河港都市でもあり、ロシアにおける芸術、文化、学術の一大中心地として発展を続けている。

市章・市旗

現在の市章は、1993年1月に決定されたものであるが、市章の緑色は健康とシベリアの自然を、白はシベリアの純粋と雪を、青い波形の帯はオビ川を、そして黒と銀の細い縞はシベリア鉄道を表わしている。これらが交差するところは、ノボシビルスクの起源と発展の基礎となったオビ川をまたぐ橋を表わしている。上部の王冠は、ノボシビルスク市が地域の中心であることを意味している。また、黒テンと弓矢は古くからあるシベリアの紋章に由来し、下部リボンの色は、ノボシビルスク市旗の白、青、緑と一致している。

市旗は市章の中心部と同様、緑、青、白の三色からなっている。



歴史

1893年、シベリア鉄道のオビ川鉄橋と鉄道駅の建設の際にできた集落が起源となっており、創設者はオビ川の鉄橋建設を指導した技師であり作家でもあるガリン＝ミハイロフスキーとされている。翌1894年に集落はアレクサンドロフスキーと名付けられ、その翌年にはノボニコラエフスキーと改称された。1903年に市となりノボニコラエフスクと呼ばれるようになった。当時は、典型的な商人の町で、アメリカの開拓地を思わせるものがあり、「シブ・シカゴ（シベリアのシカゴ）」とも呼ばれていた。1926年には「新シベリア」を意味する現名称「ノボシビルスク」に改称された。

ソビエト政権下においてはシベリア開発の中心地と位置づけられ、政府主導により産業コンビナート・学術施設等が整備され、街の規模は他に類をみない速度で拡大していった。

プーチン政権になった2000年には、ロシア全土を7連邦管区に分け、その1つであるシベリア連邦管区の中心都市として、ノボシビルスクが選ばれた。



◆ノボシビルスクの歩み◆

| | |
|-------|--|
| 1865年 | オビ川での蒸気船の運行開始 |
| 1893年 | オビ川の鉄橋と鉄道駅の建設開始。集落が形成される。 |
| 1897年 | オビ川鉄橋、鉄道駅完成 町の人口は 7,800 人 |
| 1903年 | 市制施行（ノボニコラエフスク市）人口 22,000 人 |
| 1917年 | 人口 80,000 人 電話、発電所の操業開始 |
| 1926年 | ノボシビルスク市に名称変更 |
| 1928年 | モスクワーノボシビルスク間の航空便運行開始 |
| 1930年 | 西シベリア地方の首都となる。 |
| 1937年 | ノボシビルスク州の州都となる。 |
| 1945年 | ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場完成 |
| 1953年 | 水力発電所の建設（～ 1959 年。貯水池の最長直径 240km） |
| 1957年 | アカデムゴロドクの建設開始 |
| 1958年 | ノボシビルスク国立美術館オープン |
| 1959年 | ノボシビルスク国立大学開校 |
| 1962年 | 人口 1,000,000 人突破 |
| 1979年 | 地下鉄建設開始（1986 年開業） |
| 1982年 | 人口 1,400,000 人突破 |
| 1993年 | 開基 100 周年 |
| 1994年 | トルマチョボ空港国際化 |
| 2000年 | ロシア全土が 7 連邦管区制になり、シベリア連邦管区の中心都市として選ばれる。 |
| 2003年 | 開基 110 周年 |
| 2010年 | ノボシビルスク・テクノパーク建設 |
| 2012年 | ロシアのアジア部で最大のプラネタリウムオープン。人口 1,500,000 人突破 |
| 2013年 | 開基 120 周年。「スポーツ・芸術・知性国際子ども大会」開催。 |

地理的位置と気候

| | | |
|---------------|--|--|
| 地 理 | 南北 45 キロ、東西 26.5 キロ | |
| 位 置 | 北緯55度01分、東緯82度55分（札幌は北緯43度03分、東緯141度21分） | |
| 札幌とノボシビルスクの距離 | 約 4,000 キロ | |
| 日本との時差 | 3 時間、夏は 2 時間 | |
| 史上最高気温 | 40度 | |
| 7 月平均気温 | 19度 | |
| 史上最低気温 | マイナス 51度 | |
| 1 月平均気温 | マイナス 19度 | |
| 降 雪 量 | 約 1 メートル | |

人口と面積

人口は、1,567,087人（2015年1月1日）で、モスクワ、サンクトペテルブルグに次ぐロシア第3位の都市。面積は、約502 km²（札幌1,121 km²）。

ノボシビルスクは、人口100万人に達するのに68年しかかかっておらず、同じ100万人に達するのに89年を要したシカゴを抜いて、世界で最も人口が急成長した都市と言われている。

これは、石炭・鉄鉱石等の鉱物の他、森林、農産物などの豊富な天然資源を背景に、シベリア開発の中心都市として整備されたことに伴い、多くの技術者労働者が移住してきた歴史と関連が深いといえる。

また、民族的な構成はロシア人が93%を占め、その他はウクライナ人、タタール人、アルメニア人、ドイツ人等となっている。

交 通

都心から西へ約25kmの所に空の玄関口トルマチョボ空港がある。国内線のみならず、国際空港として旧ソ連諸国のほか、ドイツなどのヨーロッパ諸国、イスラエル等中東諸国、モンゴル、中国などと結ばれており、シベリア横断ルートの中継基地となっている。

また、シベリア鉄道が東西に伸び、シベリア最大の鉄道ターミナル、さらにオビ川の河川港など、交通の要衝として重要な役割を果たしている。



市内の交通としては、地下鉄、バス、トロリーバス、路面電車、ミニバス（マルシュルートカ）などの公共交通機関が主体となっている。

シベリア極東地域では初めてとなるノボシビルスクの地下鉄は、1986年1月7日に開業。現在、レーニン線（8駅）とジェルジンスキー線（5駅）の2路線で総距離約15.9kmの営業をしており、建設工事は今も続いている。最高速度は時速80kmで、朝夕のラッシュ時には、2分40秒間隔で運行されている。

産 業

1917年のソビエト革命政権樹立後、ノボシビルスクは周辺の恵まれた資源を生かして工業の一大中心地となった。

市の代表的な企業のほとんどは工業製品を製造しており、いわゆる大手企業は200社ほどに上る。主な製造品としては、航空機をはじめとする各種機械類、電化製品などがある。また、鉄鋼・非鉄金属の精製加工、化学製品や靴、洋服、家具などを製造する工場もある。

また、発達した農業を生かして数多くの食品加工工場もあり、農業生産物は、156万人のノボシビルスク市民はもとより、シベリアの他の地域にも供給されている。

しかし、ソ連崩壊後の政治経済の混乱により製造業は一時大きな打撃を受け、特に機械・金属工業など重工業の占める位置が相対的に低下している。ソ連時代、ノボシビルスクは軍需産業の中心地でもあったが、近年の産業構造の変化に伴い、蓄積された高度な技術を活用し、民需産業への転換とハイテク・情報技術産業の育成を図っている。

商業活動としては、経済の自由化に伴い、商業、金融業などをはじめとするサービス業が伸びてきている。また、大規模な施設も有し国際見本市を含め、大小様々な見本市も年間を通して開催されている。

ノボシビルスク市は、2001年にWTA（World Technopolis Association）に入会し、2005年10月に第4回WTAテクノマートを開催した。

芸術・文化・スポーツ

音楽、バレエ、演劇など質の高い優れた芸術・文化を誇るロシアの中でも、ノボシビルスクはその一大中心地となっている。

1945年に完成した「ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場」は、世界最大規模の舞台を誇り、シベリアのポリショイ劇場と呼ばれ、市のシンボリック的存在となっている。

また、市内で最も古い国立劇場「クラスヌイ・ファケル」、実験的な演出の劇場「スターレイ・ドム」、帆船の形をしたユニークな建物「グローブス」、「ミュージカル・コメディ劇場」、「人形劇場」など15カ所のプロ劇団以外にも劇場を有し、1年間で75万人以上の人々が劇場に足を運ぶ。

音楽の分野では、ノボシビルスク・フィルハーモニー管弦楽団、シベリア民族合唱団、ロシア民族楽器オーケストラ、室内合唱団など世界的に活躍するプロの芸術集団が活躍している。

また、ノボシビルスクのサーカスの歴史は、1899年に始まり、1970年から一年を通して、ロシア国内外の劇団によって上演されている。

シベリアで最大規模を誇るノボシビルスク国立美術館では、ロシアの著名な画家の作品のほか、シベリア派のイコン（宗教画）のコレクションが充実している。

優れた芸術文化を育んだ背景として、ノボシビルスク国立グリнка音楽院、ノボシビルスク国立建築・美術学院、バレエ学校、演劇学校、ノボシビルスク国立教育大学美術学部など優れた芸術家を輩出している教育機関があげられる。特に、ウラル以東で唯一の国立音楽院付属専門学校では、シベリア・極東地域の各都市から集まる才能豊かな若者たちにプロになる英才教育を行っており、1980年代には名教師ザハール・ブロン（現在ドイツ在住）の指導のもと、バイオリニストのワディム・レーピン、マキシム・ベンゲーロフが、他にもバイオリニストのアントン・バラホフスキーをはじめ世界的に活躍する音楽家を多数輩出している。さらに、ノボシビルスク音楽院からは、世界中の主な歌劇場に出演しているガリーナ・ゴルチャコワやPMFにも参加し近年注目を集めているエテリ・グワザワなど優れたソプラノ歌手が活躍している。



国立青年劇場グローブス

市内の創作活動団体としては、画家、作家、作曲家、建築家、映画関係者、ジャーナリスト、その他多くの分野で精力的に活動を行っているほか、多数の文化会館が文化活動を行っている。

スポーツでは、国民的スポーツのサッカーはもちろん、レスリングや柔道などの各種格闘技、アイスホッケー、ノルディックスキー、バイアスロン、スケートなどのウィンタースポーツが盛んであり、市内に多くのスポーツ



ノボシビルスク州立郷土博物館

施設、教育機関がある。また、サッカーを始め、アイスホッケー、バレーボール男女、バスケットボール男女といった6つのプロチームも有し優れた選手も多く活躍している。特に、ノボシビルスク出身の元レスリング選手アレクサンドル・カレリンは、国民的英雄として尊敬を集めていて、2011年からロシア連邦議会国家院（日本の衆議院に相当）の議員である。ノボシビルスクには、16人のオリンピック金メダリストがいる。

学術・教育

ノボシビルスクには、ロシア連邦「科学アカデミー・シベリア支部」（研究所：約50カ所）、「農業アカデミー・シベリア支部」（研究所：29カ所）、「医学アカデミー・シベリア支部」（研究所：8カ所）、「建築・建設科学アカデミー・シベリア地方支部」、という4つのアカデミーが置かれ、多くの学者たちが、シベリア全域の諸問題解決に当たっている。

科学アカデミー・シベリア支部の設置は、シベリア・極東の科学力を強化し、資源開発を促進することを目的として1957年に政府決定され、その後、急速なテンポで市中心部から28km離れた地区に研究所群や研究者と家族のための住宅が次々と建設された。20カ所以上の研究所を含むこの地区は「アカデムゴロドク」と呼ばれ、国内のみならず、国際的な学術センターの一つとなっている。なかでも原子物理学研究所は世界的な規模を誇り、ペレストロイカ期の経済改革においてノボシビルスクの経済学者が果たした役割は大きいといわれている。シベリア支部の研究所は、シベリア・極東地域の各都市にも置かれているが、特に基礎科学研究の分野はノボシビルスクに集中している。なお、日本の機関としては、東北大学が科学アカデミー・シベリア支部と「共同ラボラトリー」を設置しており、学术交流や共同研究を行っている。

また、科学アカデミー・シベリア支部に属する国立科学技術公共図書館は、国連受託図書館にもなっており、1,400万冊を超える蔵書数はシベリア・極東で最大である。

大学は支部を含めて国立が18校、私立が16校あり(全:34校)、大学全体で120,000人以上の学生が学んでいる。なかでも、1959年に設立されたノボシビルスク国立大学は、アカデムゴロドクに位置し、科学と教育の統合を基本活動方針とする科学アカデミー・シベリア支部と密接な関係を有している。

ノボシビルスクにはシベリア日本語教育協会があり、7カ所の大学とシベリア・北海道文化センターなどでは多くの学生が日本語を学んでいる。



世界の中のノボシビルスク

ノボシビルスクはシベリア開発の中心地として発展してきたため、帝政、ソ連時代を通じて国内外から学者、技術者や労働者が集まってまちづくりが行われてきた。このため、外国との結びつきが強く、第二次世界大戦前には日本の領事館も置かれていた。また、第二次世界大戦後はシベリアに抑留された日本人を収容した病院もあったため、小規模ながら日本人墓地も存在する。

ソ連崩壊後は、企業の進出、航空路線の開設等外国との交流が活発になっているが、特にドイツとの結びつきが活発である。総領事館も設置されているが、ドイツ系の移民が比較的多かったという歴史的背景も考えられる。ドイツ総領事館の他に、ウズベキスタン総領事館、ウクライナ領事館、大韓貿易投資振興公社(KOTRA)、イタリア貿易振興会ノボシビルスク事務所などの外国公館があり、ノボシビルスク・アリアンスフランセーズ、孔子学院、ゲーテ・インスティトゥート(ドイツ文化センター)、イスラエル文化センター、市立シベリア・北海道文化センターなどの国際交流機関もある。

ノボシビルスク市は、札幌市のほか、アメリカのミネアポリス市、セント・ポール市(1989年2月9日)、中国の綿陽市(1994年8月18日)と瀋陽市(2013年5月29日)、韓国の大田市(2001年10月22日)、ブルガリアのヴァルナ市(2008年6月28日)、キルギスのオシ市(2009年6月27日)、ウクライナのハルキウ市(2011年8月24日)、ベラルーシのミンスク市(2012年6月23日)、アルメニアのエレバン市(2014年10月10日)、モンゴルのウランバートル市(2015年10月5日)と姉妹都市提携を結んでいる。

ノボシビルスク市役所の正式ホームページ: <http://www.novo-sibirsk.ru/> (ロシア語)

ノボシビルスクのみどころ

ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場

Новосибирский Государственный Академический Театр Оперы и Балета

このオペラ・バレエ劇場は1945年5月12日にオープンしたロシアで最も大きな劇場です(建築容積は294,000立方メートル)。

目を引く外観、特に当時ヨーロッパで初めて使われたユニークな銀色の円形屋根の劇場は、市民に身近でわかりやすいシンボルとなっています。

1998年シーズンにはロシアで最も素晴らしい劇場と呼ばれるようになり、それ以降、ロシアの演劇界で最も評価の高い賞である「ゴールデンマスク」(最優秀賞)を何度も受賞しています。



聖ニコライ記念礼拝堂

Часовня святого Николая

ノボシビルスクのメイン通りである「赤大通り」にあり、ノボシビルスクのシンボルの一つとなっています。ロマノフ王政権300年を記念し、1913年から建築が始まり、1915年に神聖化された。1930年に破壊されましたが、1993年に再建築され、現在の姿になりました。ロシア帝国時代、教会の位置が国土のちょうど真ん中にあっただため、「ロシアのヘソ」と呼ばれています。

ロシア正教協会の特徴を現している建物は、観光客に人気のスポットであるとともに、ノボシビルスク市民がとても誇りに思う名所の一つです。この礼拝堂をモチーフにしたお土産も数多く売られています。



オビ川鉄橋

Железнодорожный мост через р.Обь

ノボシビルスクにとって、シベリア鉄道はなくてはならない存在です。

市の中心を流れるオビ川にかかる鉄橋は、ノボシビルスク史の始まりであり、当時、シベリア鉄道建設に携わった労働者がノボシビルスク最初の市民となり、ノボシビルスク市旗にも表されています。19世紀に造られた古い橋の一部は、ノボシビルスク誕生記念公園の中心となっています。



シベリア鉄道ノボシビルスク駅

Вокзал Новосибирск - Главный



現在のノボシビルスク駅の建物は、1932年から1939年にかけて建設され、ノボシビルスクのシンボルの1つになっています。シベリア鉄道最大の駅で、内装は大理石などの自然石で作られ、外装はきれいな緑色。駅前には、1891年にオビ川の鉄橋位置を決定したガリン＝ミハイロフスキーの記念広場があります。

アカデムゴロドク

Академгородок

ノボシビルスク市内から約30km、オビ川の人工湖の岸にあるアカデムゴロドク（アカデミーの町）の歴史は、1957年から始まりました。ロシア科学アカデミー・シベリア支部の20ヵ所以上の研究所とノボシビルスク国立大学がある科学者の町です。自然に恵まれたアカデムゴロドクは、その独特な雰囲気から観光スポットにもなっており、国際的規模の学会もしばしば開かれています。そして、IT産業を発展させるため、2010年からはノボシビルスク・テクノパークが建設され、ロシアの頭脳を結集し、米国のシリコンバレーに優るとも劣らないIT産業センターを目指しています。現在、IT産業のベンチャー企業のみならず、バイオ・医療分野の企業も含め、約70社が加入しています。



ロシアの近代建築と木造の教会、近代科学技術展示場と資源の豊かなシベリアの地質学博物館、並木道と広い道路などのコントラストが綺麗な町でもあります。

資料編

- * 札幌市とノボシビルスク市との友好促進に関する決議（1989.5.12）
- * 札幌市とノボシビルスク市との姉妹都市提携に関する決議（1990.3.19）
- * 札幌市とノボシビルスク市との間における姉妹都市提携に関する盟約（1990.6.13）
- * 札幌市とノボシビルスク市との交流に関する覚書（1990.6.13）
- * 札幌市（日本）とノボシビルスク市（ソ連）姉妹都市間友好と協力の発展に関する声明書（1990.8.21）
- * 西暦 2000 年までの札幌市とノボシビルスク市との姉妹関係促進に関する宣言（1995.9.7）
- * 札幌市（日本）とノボシビルスク市（ロシア）との姉妹関係促進に関する宣言（2000.6.29）
- * 札幌市（日本）とノボシビルスク市（ロシア）との姉妹関係促進に関する宣言（2005.6.25）
- * 札幌市（日本）とノボシビルスク市（ロシア）との姉妹間友好と協力の促進に関する宣言（2010.6.26）
- * 札幌市（日本）とノボシビルスク市（ロシア）との姉妹間友好と協力の促進に関する宣言（2015.6.27）
- * 札幌・ノボシビルスク友好提携団体および学術交流団体一覧
- * 歴代ノボシビルスク市長
- * ノボシビルスク市および市議会の行政組織
- * 両市間の主な交換記念品・贈呈品
- * 在札幌ロシア関係機関・友好団体

札幌市とノボシビルスク市との間における姉妹都市提携に関する盟約

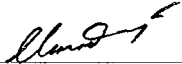
(1990.6.23)



札幌市とノボシビルスク市との間における
姉妹都市提携に関する盟約

日本国北海道札幌市とソビエト社会主義共和国連邦ロシア共和国ノボシビルスク市は、相互に文化、学術、経済等の分野で交流を図り両市の友好と相互理解を深め、併せて両国の友好親善を促進することを念願し、ひいてはこれが世界平和に貢献する所以であることを確信し、ここに両市が姉妹都市として提携することを盟約する。

1990年6月13日


板垣武四 
日本国北海道
札幌市長 板垣 武四
ソビエト社会主義共和国連邦ロシア共和国
ノボシビルスク市長
イワン・イワノビッチ・インディノク



Д О Г О В О Р
О ПОБРАТИМСТВЕ МЕЖДУ ГОРОДАМИ САППОРО(ЯПОНИЯ)
И НОВОСИБИРСКОМ (СССР)

13 июня 1990 года

Мы подтверждаем, что г. саппоро (Япония) и г. Новосибирск (СССР) заключают настоящий договор о побратимстве, с целью углубления взаимопонимания и дружбы, развития отношений в областях культуры, науки, экономики и других направлениях, способствуя укреплению дружеских и добрососедских отношений между народами с тем, чтобы это служило вкладом в упрочение мира во всем мире.


Иван Иванович Индинок
Мэр г. Новосибирска СССР
板垣武四
Итагаки Такэси
Мэр г. Саппоро
Хоккайдо Япония

札幌市とノボシビルスク市との交流に関する覚書

(1990.6.13)

札幌市とノボシビルスク市は、1990年6月13日札幌市において締結された両市間の姉妹都市提携に関する盟約の精神に基づき、今後の交流を拡大するため、下記の事項について確認する。

記

1 文化交流

●人形劇場の提携

- (1) 札幌市こどもの劇場「やまびこ座」とノボシビルスク人形劇場は、双方都合の良い時期に姉妹団体として提携し、人形劇に関する交流を行う。

●国際雪像コンクールへの参加

- (2) ノボシビルスク市は、札幌雪まつり実行委員会が主催する国際雪像コンクール（毎年2月開催、1チーム4人）に事前に申請を行い、参加することができる。

●姉妹都市交換写真コンテストへの参加

- (3) ノボシビルスク市は、札幌市が、ポートランド市、ミュンヘン市、瀋陽市との間で毎年開催している姉妹都市交換写真コンテストに、1991年から参加する。

●報道機関の情報交換

- (4) 札幌の地元新聞社と「シベリア新聞」は、双方にとって関心のあるテーマの記事や刊行物の交換などを含め、今後、幅広い情報交換を行う。

●バレエ合同公演

- (5) 小沢輝佐子バレエ団は、ノボシビルスク市のバレエ団と1990年12月札幌市で、姉妹都市提携を記念した合同公演を行う用意がある。ノボシビルスク市は、この実現に向けて協力する。

●若手音楽家の札幌公演

- (6) 北海道国際音楽交流協会（HIMES）は、ノボシビルスク出身のバイオリニスト、ワジム・レーピンを始めとする若手音楽家の札幌公演を希望している。ノボシビルスク市は、この実現に向けて協力する。

●演劇に関する情報交換

- (7) 札幌演劇鑑賞協会とノボシビルスク国立劇場「クラスヌイ・ファケル」は、両国の演劇事情について相互理解を深めるため情報交換を行う。

●ノボシビルスク市での日本文化公演

- (8) 「札幌国際親善の集い」の会員を中心とする親善訪問団（25名）は、1990年9月10日から18日までノボシビルスク市を訪問し、ノボシビルスク市内の劇場において、日本古典芸能を披露するなど、「ノボシビルスク・札幌友好協会」と交流を行う。

2 学術交流

●図書交換

- (1) 札幌市立中央図書館とソ連科学アカデミー・シベリア支部国立科学技術公共図書館は、双方希望する分野の図書を随時交換する。この第1回目として、札幌市立中央図書館は、1990年6月、ソ連科学アカデミー・シベリア支部国立科学技術公共図書館に「札幌文庫」、その他札幌市に関する図書を贈呈する。

●シベリア展の開催

- (2) 北海道日ソ友好文化会館と札幌市は、ソ連科学アカデミー・シベリア支部の協力のもと、1990年10月、札幌市で「シベリア展」を開催する。また、「シベリア展」の開催に併せ、北海道日ソ友好文化会館はソ連科学アカデミー・シベリア支部の科学者数名を受入れ、交流を深める。

●研究教育交流

- (3) 北海道教育大学札幌分校とノボシビルスク国立教育大学は、1990年6月13日締結の「研究教育の交流に関する協定」に基づき、研究者の交流、共同研究の実施など、具体的な交流活動の実施に向けて双方努力する。

●永久凍土に関する共同研究

- (4) 北海道大学低温科学研究所は、ソ連科学アカデミー・シベリア支部の研究所とシベリアの永久凍土に関する共同研究を行う用意がある。

●考古学分野における共同研究

- (5) 札幌大学考古学研究室とノボシビルスク歴史・言語・哲学研究所は、考古学の分野における共同研究を行う。この一環として、ノボシビルスク歴史・言語・哲学研究所所長A.P.デレビャンコ氏は、1990年11月、札幌大学考古学研究室を訪問する。

●眼科治療技術の情報交換

- (6) 札幌医科大学眼科学講座と部門間科学技術コンプレックス「アイ・マイクロサージェリー」ノボシビルスク支部は、マイクロサージェリー及びその他の眼科治療技術について情報交換を行う。

3 経済交流

- 経済分野における相互理解を深めるため；
経済専門家の招へい、セミナーの開催



(1) 札幌市は、1990年の「札幌天神山国際ハウス」オープン記念行事として、ソ連科学アカデミー・シベリア支部経済工業生産組織研究所副所長 V.V. クリシヨフ氏を招へいし、経済セミナー開催する。

●経済研究誌における論文交換

(2) 北海道大学経済学部とソ連科学アカデミー・シベリア支部経済工業生産組織研究所は、双方の機関誌「Economic Journal of Hokkaido University」と「EKO」の紙面提供を相互に行う。
また、双方は、研究交流を促進するため、交流協定の早期締結に向けて積極的に努力する。

●コンベンション・ビューローの提携

(3) 札幌国際交流プラザとノボシビルスク・シティ・ファウンデーションは、今後相互に情報交換等の交流を推進し、双方都合の良い時期に姉妹団体として提携することで合意する。

●経済交流を具体的に検討し、実施するため：
経済調査団のノボシビルスク派遣

(4) 札幌市及び札幌商工会議所は、経済調査団を組織して1990年8月下旬ノボシビルスク市に派遣する。

●常設展示コーナーの設置

(5) 札幌市とノボシビルスク市は、両市の見本市会場に相互に常設展示コーナーを設置し、製品を展示する。

●医療福祉分野における交流

(6) 札幌市とノボシビルスク市は、保健衛生に関する情報を交換する。また、医療福祉分野における交流の可能性を調査するため、札幌の医療産業関係者がノボシビルスク市を訪問する。

●大理石の取引

(7) 札幌市は、市の建築物にノボシビルスクの大理石を使用することを検討し、ノボシビルスク市は、この実現に向けて協力をする。

●ノボシビルスク経済親善訪問団の来札

(8) 「ノボシビルスク・札幌友好協会」の会員を中心とするノボシビルスク経済親善訪問団(25名)は、上記1(8)の相互交流として、1991年2月の札幌雪まつり期間中札幌市を訪問する。同訪問団は、札幌の経済団体との親善交流及び企業視察を行う。

●衣料産業分野における相互交流

(9) 西武北海道とノボシビルスク・ファッションハウスは、北国の防寒衣料について共同調査研究を行う。
双方は、都合の良い時期に専門家の相互訪問を行う。

●シベリア見本市への出店

(10) 札幌国際交流プラザは、1990年9月27日から30日までノボシビルスク市で開催される国際見本市「美'90」への地元企業の出展を検討する。

4 行政交流

●札幌市公式代表団のノボシビルスク訪問

(1) 札幌市及び札幌市議会は、両市の姉妹提携を記念して、1990年8月下旬、ノボシビルスク市を訪問する。

●職員交換

(2) 札幌市及びノボシビルスク市は、語学研修及び市政知識の習得を目的として、相互に職員の交換派遣を行うことについて協議する。

5 青少年・スポーツ交流

●姉妹校提携

(1) 札幌市立桑園小学校とノボシビルスク第163中学校は、相互理解と友情を深めるため、双方都合の良い時期に姉妹校提携をすることで合意する。
また、両市は、姉妹校提携を希望する学校がある場合には、その都度、支援協力をする。

●ジュニアスポーツ交流への新規参加

(2) ノボシビルスク市は1990年8月瀋陽市で開催される「第6回姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流」(男子柔道)に参加する。
また、ノボシビルスク市は、1991年以降、正式なメンバーとして同競技会に継続して参加することに同意する。

●札幌カップ国際スケート大会への継続参加

(3) ノボシビルスク市は、1989年の第1回大会に引き続き、1991年以降も「札幌カップ国際スケート大会」に継続して参加する。

●少年交流

(4) 両市は、少年の健全育成と相互の文化理解をめざして、少年団を互いに派遣することを検討する。

本書は、日本語及びロシア語で作成する。

1990年6月13日

札幌市長

板垣武四

ノボシビルスク市長

イワン・イワノビッチ・インディノク



札幌市(日本)ノボシビルスク市(ソ連)姉妹都市間友好と協力の発展に関する声明書

(1990.8.21)

札幌市(日本)ノボシビルスク市(ソ連) 姉妹都市間友好と協力の発展に関する 声明書

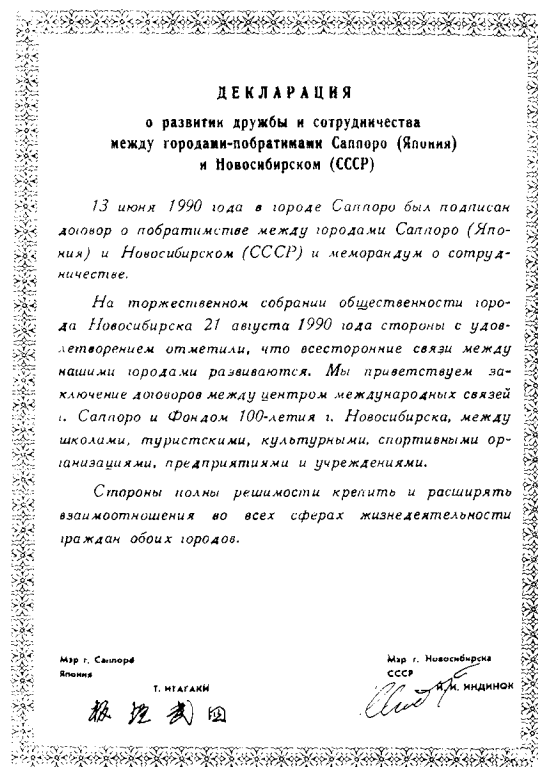
1990年6月13日札幌市において札幌市とノボシビルスク市の間に姉妹都市提携の調印と協力の覚え書に署名がなされました。

1990年8月21日ノボシビルスク市の市民祝賀会において両市の間に全面的な交流が強力に行なわれている事が証明されました。これからも札幌市の国際交流プラザとノボシビルスク市100周年記念財団の間の交流、学校間の交流、旅行、文化、スポーツ組織、企業及びあらゆる施設間の交流の協定が結ばれる事を大いに期待致します。

両市は今後ますます両市民の各分野での活動の相互関係が幅広くなる事を強力に進めるよう努力致します。

日本 札幌市長 ソ連 ノボシビルスク市長
板垣 武 四 イワン・インジノツク

板垣武四

西暦 2000 年までの札幌市とノボシビルスク市の姉妹関係促進に関する宣言

(1995.9.7)

西暦2000年までの札幌市とノボシビルスク市の 姉妹関係促進に関する宣言

世界平和の強化と諸国民の相互理解において、姉妹都市関係が果たす重要な役割を認識し、札幌とノボシビルスクの5年間の交流の経験を考慮し、両市長は、友好関係のさらなる発展と強化を目的として、ここに、宣言文に調印する。

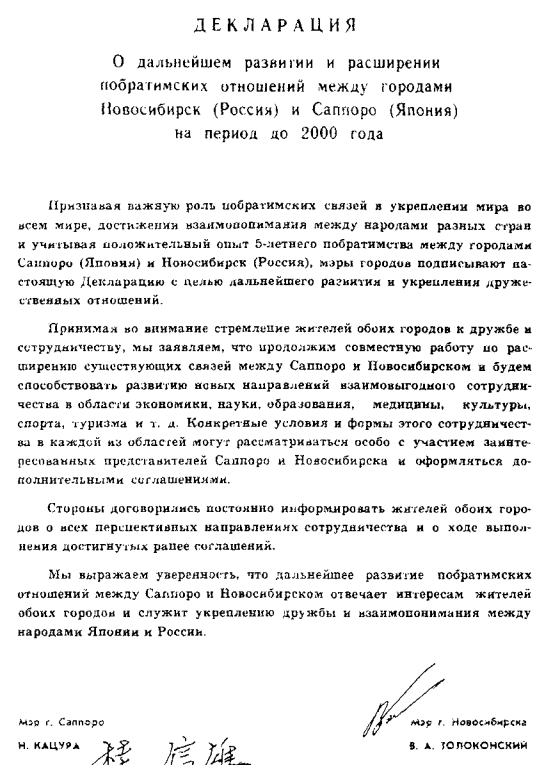
両市民の友好と協力への願いを受け、私たちは、札幌とノボシビルスクの現在の関係を共に継続して発展させ、また、経済、科学、教育、医療、文化、スポーツ、観光、その他の分野で、双方に有益な新たな交流を促進することを宣言する。それぞれの分野における具体的な協力の形は、両市の関係者の参加を得て検討され、別途、合意書を交わすことができるものとする。

双方は、両市民に、全ての有望な協力分野と合意事項の経過について、定期的に情報を提供することについて合意する。

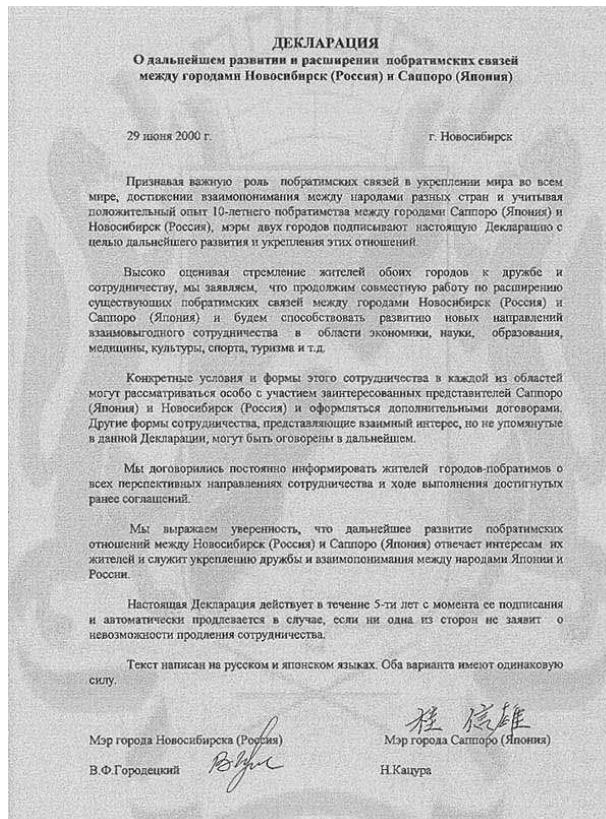
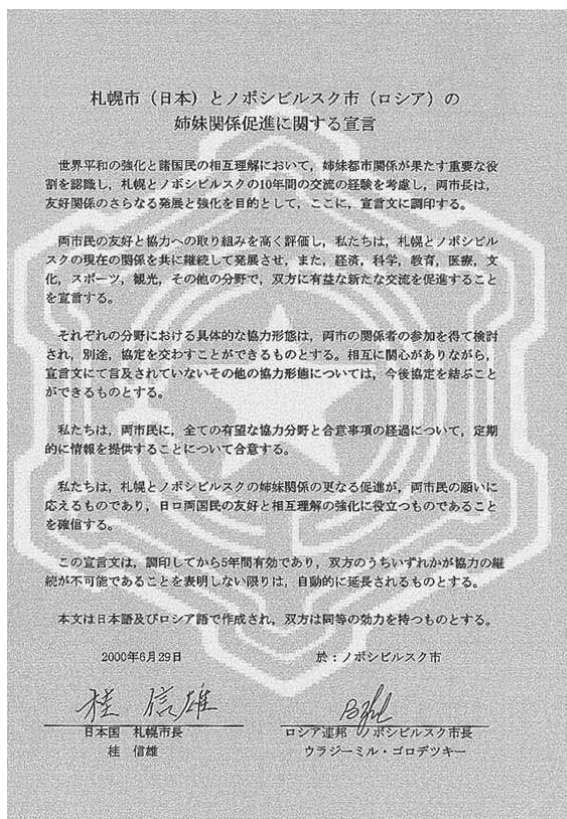
私たちは、札幌とノボシビルスクの姉妹関係の更なる促進が、両市民の願いに応えるものであり、日ロ両国民の友好と相互理解の強化に役立つものであることを確信する。

札幌市長 ノボシビルスク市長
桂 信雄 ヴィクトル・タラコンスキー

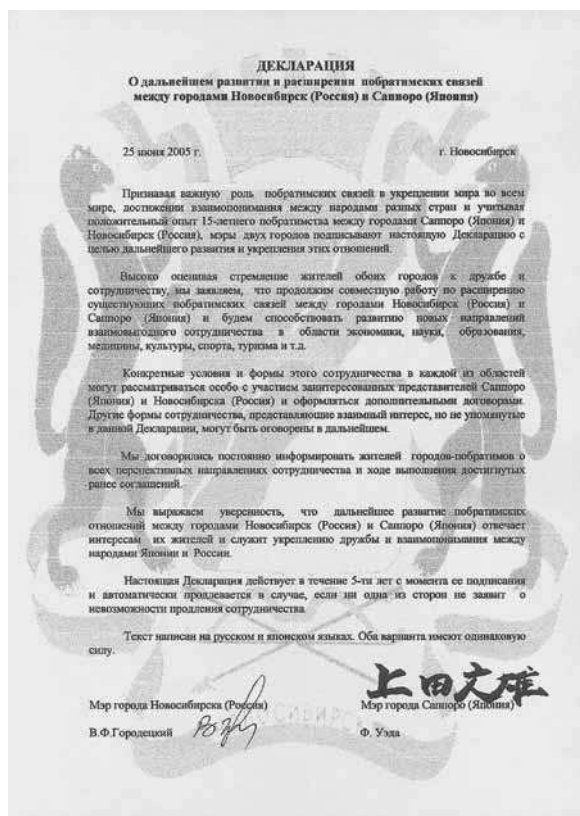
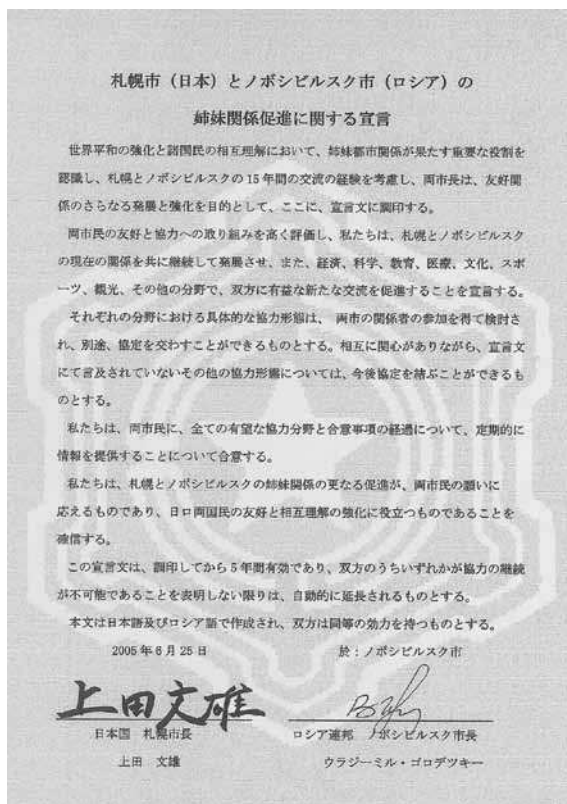
桂 信雄

札幌市(日本)とノボシビルスク市(ロシア)の姉妹関係促進に関する宣言 (2000.6.29)



札幌市(日本)とノボシビルスク市(ロシア)の姉妹関係促進に関する宣言 (2005.6.25)



札幌市(日本)とノボシビルスク市(ロシア)の姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言

(2010.6.26)

札幌市(日本)とノボシビルスク市(ロシア)の 姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言

1990年6月13日に調印された姉妹都市提携に関する盟約、2000年6月29日及び2005年6月25日の「札幌市(日本)とノボシビルスク市(ロシア)の姉妹関係促進に関する宣言」を基にし、両市(以下は「双方」)間の20年におたる姉妹都市関係の有益な経験を評価し、市民同士の友好関係強化における姉妹都市関係の重要な役割を認識し、札幌市長とノボシビルスク市長は以下の項目に賛成し、双方の相互協力のさらなる発展を目的として、ここに、宣言文に署名する。

双方は、姉妹都市提携からの20年のあいだ、文化、芸術、スポーツ、青少年施策、相互交流、ロシア語及び日本語学習の分野で、大きな関心を持って有益に協力し合い、互いの市民に姉妹都市の暮らしを紹介してきた。

双方は、これまでの姉妹都市交流の成果を尊重し、今後も、経済、商業、展示活動、科学、医学、及び本宣言で示されていないその他の相互に関心のある分野について、市民のために新たな交流促進を図ることを決意する。

双方は、札幌とノボシビルスクの姉妹都市関係の更なる促進が、両市民の願いに応えるものであり、両市民の友好と相互理解に役立つものであることを確信する。

この宣言文は調印日から5年間有効であり、双方のうちいずれかが中止を表明しない限りは、自動的に延長されるものとする。また、宣言文は上に掲げた分野での協力促進の基礎となる。

本文は日本語及びロシア語で作成され、双方は同等の効力を持つものとする。

2010年6月26日

於：ノボシビルスク市


日本国 札幌市長
上田 文雄


ロシア連邦 ノボシビルスク市長
ウラジーミル・ゴロデツキー

ДЕКЛАРАЦИЯ о дальнейшем развитии дружбы и сотрудничества между городами-побратимами Новосибирском (Россия) и Саппоро (Япония)

Принимая за основу Договор о побратимстве, подписанный 13 июня 1990 года, Декларацию о дальнейшем развитии и расширении побратимских связей между городами Новосибирск (Россия) и Саппоро (Япония) от 29 июня 2000 года и 25 июня 2005 года, признавая успешным 20-летний опыт побратимских отношений между двумя городами, называемыми в дальнейшем Сторонами, а также важную роль таких связей в укреплении дружбы между их жителями, мэры Новосибирска и Саппоро соглашаются с нижеприведенным и подписывают настоящую Декларацию с целью дальнейшего расширения двустороннего сотрудничества.


За 20 лет, прошедших с подписания Договора о побратимстве, Стороны с большой заинтересованностью и эффективностью осуществляли сотрудничество в области культуры и искусства, спорта, молодежной политики и двусторонних обменов, изучения русского и японского языков, знакомили своих жителей с жизнью городов-побратимов.


Признавая плодотворной работу в рамках побратимства в предшествующий период, Стороны полны решимости и в дальнейшем содействовать развитию новых направлений сотрудничества на благо жителей наших городов в таких областях, как экономика, торговля, выставочная деятельность, наука, медицина, и также в других сферах взаимных интересов, не упомянутых в данной Декларации.

Стороны выразили уверенность, что дальнейшее развитие побратимских отношений между городами Новосибирском и Саппоро отвечает интересам их жителей и служит укреплению дружбы и взаимопонимания между ними.

Настоящая Декларация вступает в силу со дня ее подписания, действует в течение пяти лет и автоматически продлевается, если ни одна из Сторон не заявит о прекращении ее действия. Декларация является основой для развития сотрудничества по указанным выше направлениям.

Совершено в городе Новосибирске 26 июня 2010 года. Текст Декларации составлен на русском и японском языках. Оба варианта имеют одинаковую силу.

Мэр города Новосибирска
(Российская Федерация)

В.Ф. Городетский

Мэр города Саппоро
(Япония)

Фумио Уэда

札幌市(日本)とノボシビルスク市(ロシア)の姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言

(2015.6.27)

札幌市(日本)とノボシビルスク市(ロシア)の

姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言

1990年、札幌市とノボシビルスク市は、相互に文化、学術、経済等の分野で交流を図り両市の友好と相互理解を深め、併せて日露両国の友好親善を促進することを念願し、姉妹都市提携を結んだ。

以来25年、両市の間では、姉妹都市提携に関する協約の精神に基づき、文化、芸術、スポーツ、青少年施策、相互交流、ロシア語及び日本語学習など幅広い分野における市民同士の活発な交流を通して、友好を深め、信頼関係を築いてきた。

札幌市長とノボシビルスク市長は、これまでの良好な姉妹都市関係を評価し、この有意義な関係を将来に向けてさらに強固なものにするため、以下の項目について同意し、宣言文に署名する。

私たちは、札幌とノボシビルスクの姉妹都市関係のさらなる発展が両市民の願いに応えるものであることを確信し、今後とも、市民のために有益な交流をより一層促進させることを決意する。

私たちは、相互に文化、学術、経済等の分野で交流を図り両市の友好と相互理解を深めるという姉妹都市提携の理念を引き続き具現化するため、両市の特性を生かした取り組みに一層努めるものとする。

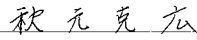
両市は、それぞれの地域の中心都市であり、まちの歴史や規模、気候など多くの似た特徴を有している。私たちは、その類似性を踏まえ、共通する地域の諸課題を検証し、課題解決に向けた情報交換や技術交流を行うなど、相互に協力していくことを決意する。

この宣言文は、新たな宣言文に調印するか、双方のうちいずれかが中止を表明しない限り、効力を有するものとする。また、宣言文は上に掲げた分野での協力促進の基礎となる。

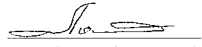
本文は日本語及びロシア語で作成され、双方は同等の効力を持つものとする。

2015年6月27日

於：ノボシビルスク市



日本国 札幌市長
秋元 克広



ロシア連邦 ノボシビルスク市長
ロー・コチ・アナトーリー

Декларация

О дальнейшем развитии и расширении побратимских связей между городами Новосибирск (Россия) и Саппоро (Япония)

В 1990 г. города Саппоро и Новосибирск заключили договор о побратимстве с целью углубления взаимопонимания и дружбы, развития отношений в области культуры, науки, экономики и других направлениях, способствуя укреплению дружеских и добрососедских отношений между Россией и Японией.

За прошедшие 25 лет, в соответствии с духом заключенного договора, активное сотрудничество в области культуры, искусства, спорта, молодежной политики и двусторонних обменов, изучения русского и японского языков привело к углублению дружбы между нашими городами и возникновению доверительных отношений.

Высоко оценивая дружеские побратимские отношения и стремясь к дальнейшему укреплению и развитию этих важных отношений, мэры Новосибирска и Саппоро выражают согласие с нижеследующим и подписывают настоящую Декларацию.

Мы выражаем уверенность, что дальнейшее развитие побратимских отношений между Новосибирском и Саппоро отвечает интересам их жителей, и полны решимости содействовать дальнейшему развитию плодотворного сотрудничества.

Мы будем прилагать усилия для развития наших городов, сохраняя их самобытные черты, с целью воплощения идей побратимского договора об углублении взаимопонимания и дружбы между нашими городами, развитии отношений в области культуры, науки, экономики и других направлениях.


Наши города имеют множество схожих особенностей – история города, его масштаб и климат, оба являются центрами в своих регионах. Опираясь на эти общие черты, мы намерены оказывать друг другу взаимную поддержку, в том числе проводить обмен информацией и технологиями, для решения множества проблем, общих для наших регионов.

Настоящая Декларация вступает в силу со дня ее подписания и действует до момента подписания новой декларации, если ни одна из Сторон не заявит о прекращении ее действия.

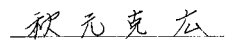
Текст составлен на русском и японском языках. Оба варианта имеют одинаковую силу.

27 июня 2015 г.

г. Новосибирск



Мэр города Новосибирска
(Российская Федерация)
А.Б. Локоть



Мэр города Саппоро
(Япония)
К. Акимото

❖ 札幌・ノボシビルスク友好提携団体

| No | 提携年月日 | 提携団体 | |
|----|------------|--------------------------------|------------------------------|
| 1 | 1980年5月26日 | 日本ユーラシア協会札幌支部 | ロシア日本協会ノボシビルスク支部 |
| 2 | 1988年5月28日 | 北海道インターナショナル・ダンスシアター主宰小沢輝佐子舞踊団 | ノボシビルスク国立アカデミーオペラ・バレエ劇場 |
| 3 | 1990年9月27日 | 北海道放送株式会社 | ノボシビルスク・テレビラジオ委員会 |
| 5 | 1991年6月9日 | 札幌演劇鑑賞協会 | ノボシビルスク国立劇場「クラスヌィ・ファケル」 |
| 6 | 1992年3月17日 | アイセック（国際経済商学学生協会）北海道大学委員会 | アイセック・ノボシビルスク委員会 |
| 7 | 1995年6月16日 | 北海道国際音楽交流協会（HIMES） | ノボシビルスク国立グリンカ音楽院附属日本音楽文化センター |
| 8 | 2000年6月29日 | 公益財団法人札幌国際プラザ | ノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター |

❖ 学術交流団体

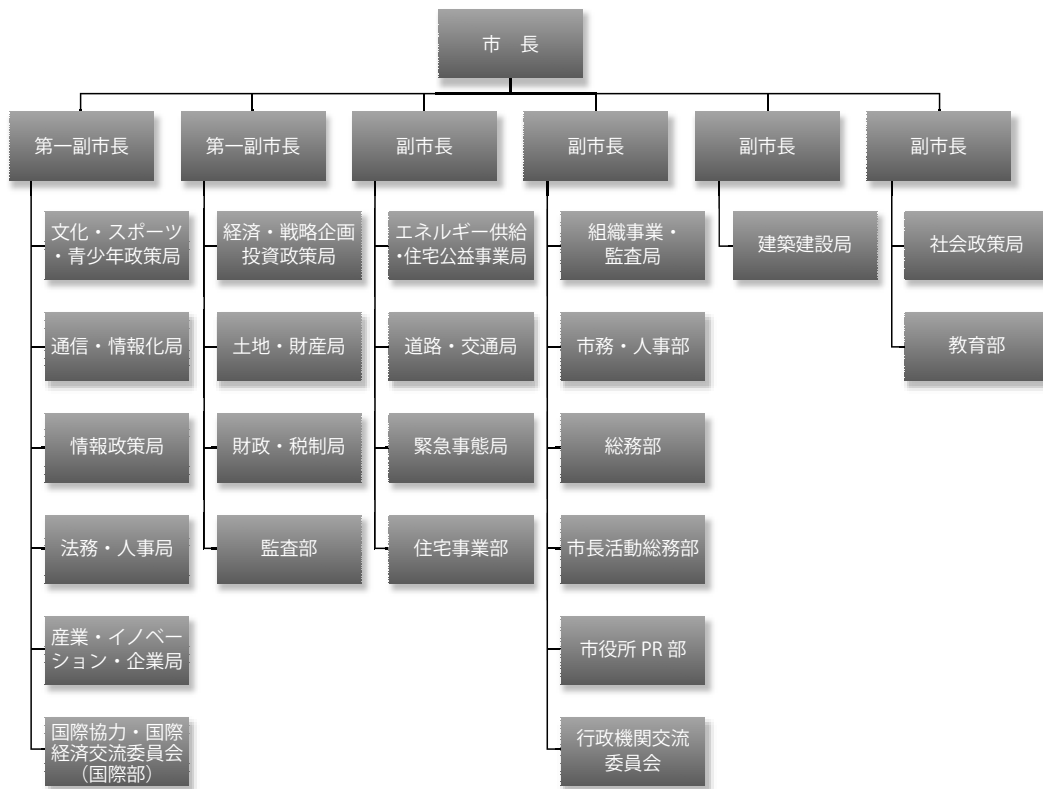
| No | 提携年月日 | 提携団体 | |
|----|------------|-------------|---------------------------------------|
| 1 | 1990年6月13日 | 札幌大学考古学研究室 | ロシア科学アカデミー・シベリア支部「考古学・民俗学研究所」 |
| 2 | 1990年6月13日 | 北海道教育大学札幌分校 | ノボシビルスク国立教育大学 |
| 3 | 1990年7月30日 | 北海道大学経済学部 | ロシア科学アカデミー・シベリア支部「経済・工業生産組織研究所」 |
| 4 | 1992年3月10日 | 北海道大学理学部 | ロシア科学アカデミー・シベリア支部「地質学・地球物理学・鉱物学連合研究所」 |
| 5 | 1993年6月18日 | 北海道大学理学部 | ノボシビルスク国立大学 |
| 6 | 2000年6月29日 | 北海学園大学 | ノボシビルスク国立大学 |
| 7 | 2000年8月9日 | 北海学園大学 | シベリア国立交通大学 |
| 8 | 2005年6月29日 | 札幌国際日本語学院 | シベリア国際関係・地方学大学 |
| 9 | 2013年6月28日 | 札幌武蔵野美術学院 | ノボシビルスク国立芸術専門学校 |

❖ 歴代ノボシビルスク市長

| 在職期間 | 市長名 |
|-------------------|---|
| 1983年12月～1988年11月 | VLADIMIR PAVLOVICH CHIKINEV ウラジーミル・パブロヴィチ・チキニョフ |
| 1988年11月～1993年10月 | IVAN IVANOVICH INDINOK イワン・イワノヴィチ・インディノク |
| 1993年10月～2000年1月 | VICTOR ALEXANDROVICH TOLOKONSKY ビクトル・アレクサンドロヴィチ・タラコンスキー |
| 2000年3月～2014年1月 | VLADIMIR PHILIPPOVICH GORODETSKY ウラジーミル・フィリップポヴィチ・ゴロデツキー |
| 2014年4月～ | ANATOLIY EVGENIEVICH LOKOT アナトーリー・エフゲーニエヴィチ・ローコチ |

❖ ノボシビルスク市の行政組織

(2016年1月現在)

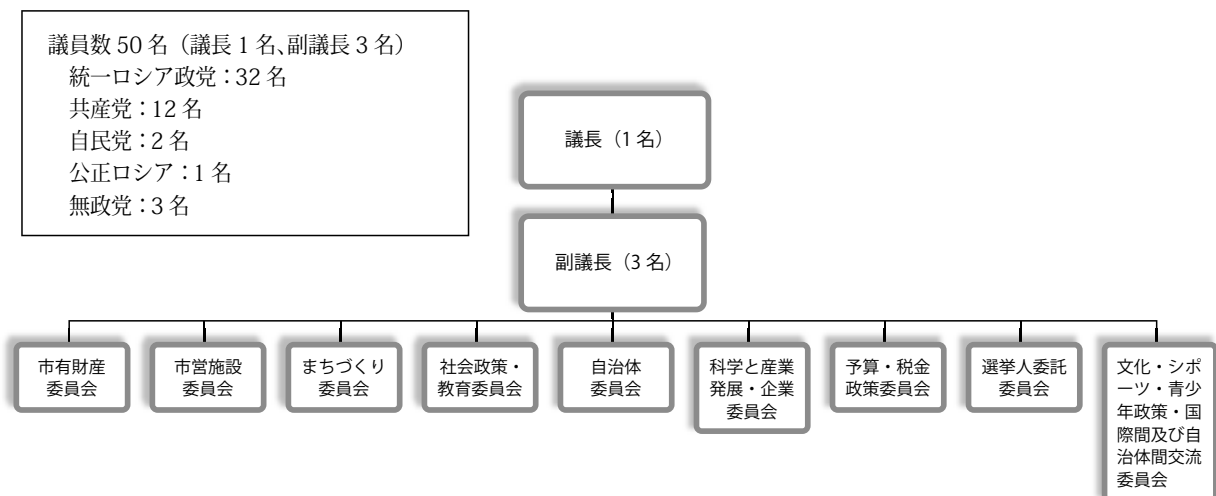


地区の行政機関 (10区)

ジェルジンスキー区、ジェレズノドロージュナイ区、ザエリツォフスキー区、
 カリーニンスキー区、キロフスキー区、レニンスキー区、オクチャプリスキー区、
 ペルボマイスキー区、ソビエツキー区、ツェントラリナイ区

❖ ノボシビルスク市議会の組織

(2015年10月現在)



❖ 両市間の主な交換記念品・贈呈品

| 時 期 | 札幌→ノボシビルスク | ノボシビルスク→札幌 |
|----------------------------|--|---|
| 1987年 (動物交換) | ニホンザル 5頭 ニホンキジ 2頭 レインボーボア 3頭 タイワンスジオ 3頭 アオタイショウ 3頭、ふ卵器 | ペルシャヒョウ 2頭 カワウソ 2頭 |
| 1990年 (姉妹都市提携記念品) | 日本人形(木目込み人形) 2体 | クロテンの剥製壁掛け |
| 1991年 (ノボシビルスク支援募金) | 札幌市民から寄せられた募金 約550万円で購入した医薬品・医療器具 | |
| 1993年 (ノボシビルスク市開基100年祭) | からくり時計(壁掛け式) | 100年記念柱時計 |
| 1995年 (姉妹都市提携5周年) | 押し絵細工の壁飾り(舞妓) 版画(札幌時計台) 日本語教材(テキスト200冊、 ビデオテープ10セット) | ノボシビルスク市章のラシャ 白樺細工の絵画(ノボシビルスク市内 の寺院・シベリアの風景画) |
| 2000年 (姉妹都市提携10周年) | 版画(大通公園) | トゥエス(白樺製工芸品) |
| 2003年 (ノボシビルスク市開基110年祭) | 版画(夏の大通公園) 日本人形 | |
| 2005年 (姉妹都市提携15周年) | 壁掛け時計 書道セット(15セット) | 白樺細工の風景画 |
| 2010年 (姉妹都市提携20周年) | 藻岩焼の壺 版画(リラの花咲く) | ノボシビルスク市内の劇場などの レリーフ、プレート |
| 2013年 (ノボシビルスク市開基120年祭) | ユーカラ織(額付) | |
| 2015年 (姉妹都市提携25周年) | 札幌スタイルの丸皿 書画(心) | ノボシビルスクの名所をあしらった レリーフ 銀のメダルセット |

❖ 在札幌ロシア関係機関・友好団体

| 名 称 | 代 表 者 | 住 所 |
|------------------|----------------------------|---|
| 在札幌ロシア連邦総領事館 | 総領事 アンドレイ・ ファブリーチニコフ | 〒064-0914 中央区南 14 条西 12 丁目 TEL561-3171 FAX561-8897 業務時間：14：00～16：00 |
| 公益財団法人札幌国際プラザ | 理事長 上田 文雄 | 〒060-0001 中央区北 1 条西 3 丁目 札幌MNビル3階 TEL211-3670 FAX211-3673 |
| 札幌姉妹都市協会 | 会長 福迫 尚一郎 | 〒060-0001 中央区北 1 条西 3 丁目 札幌MNビル3階 札幌国際プラザ内 TEL211-2105 FAX232-3833 |
| 日本ユーラシア協会札幌支部 | 支部長 竹田 正直 | 〒060-0809 北区北 9 条西 4 丁目 エルムビル4階 TEL707-9722 FAX707-7567 |
| 日本ユーラシア協会北海道連合会 | 会長 池田 均 | 〒060-0809 北区北 9 条西 4 丁目 エルムビル4階 TEL707-0933 FAX707-7567 |
| 北海道日本ロシア協会 | 会長 鈴木 泰行 | 〒060-0003 北区北 3 条西 7 丁目 緑苑ビル10階 1006 号室 TEL261-8887 FAX261-0177 |
| 北海道・ロシア文化協会 | 会長 根本 清一 | 〒062-0003 豊平区美園 3 条 8 丁目 3-15 美園壺番館 TEL817-7123 FAX817-7124 |
| 札幌・ノボシビルスク友好交流協会 | 会長 千葉 裕子 | 〒064-0914 中央区南 14 条西 19 丁目 1-53-202 TEL080-1897-5568 |

(2016年2月現在)

札幌・ノボシビルスク 姉妹都市提携25周年記念誌

発行年月／平成28年(2016年)3月

発行／札幌市国際部交流課

札幌市中央区北1条西2丁目

☎(011)211-2032

印刷／白馬堂印刷株

SAPPORO



さっぽろ市
01-012-15-2000
07-1-151

※本誌は本文・表紙とも再生紙を使用しております。

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携25周年記念誌



СБОРНИК, ПОСВЯЩЕННЫЙ 25-ЛЕТИЮ
УСТАНОВЛЕНИЯ ПОБРАТИМСКИХ СВЯЗЕЙ МЕЖДУ
САППОРО И НОВОСИБИРСКОМ